

# 令和元年度福島県保健医療福祉復興ビジョン指標の達成状況一覧(詳細版)

資料3-5

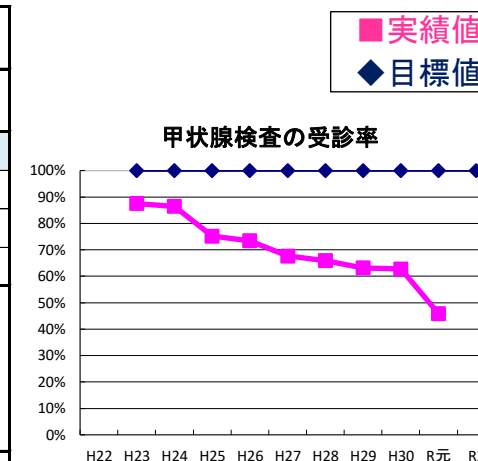
## 指標の進行状況

①基本目標	1 復興へ向けた保健・医療・福祉の推進
②施策	(1) 復興へ向けた心身の健康管理対策の推進 (2) 医療提供体制の回復 (3) 最先端医療体制の整備 (4) 安心できる子育て環境の整備 (5) 福祉サービス提供体制の復旧 (6) 飲料水及び食品等の安全性の確保 (7) 保健・医療・福祉の連携体制の構築

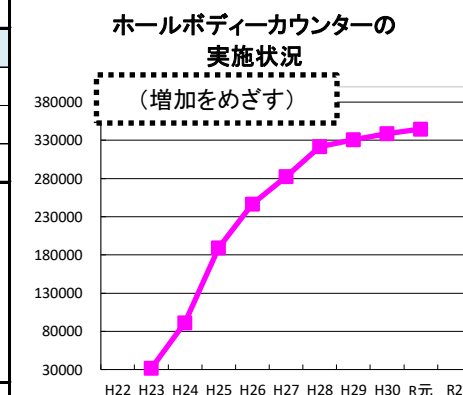
(注)⑥指標の推移  
 <目標値がある指標の達成状況>

A(100%以上) B(80%~100%未満)  
 C(70%~80%未満) D(70%未満)  
 ※増加を目指す指標→実績/目標  
 ※減少を目指す指標→目標/実績

③指標No.、名称	1 甲状腺検査の受診率										
④指標の説明	実施年度の対象者が検査を受診した割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	実績		87.5%	86.5%	75.2%	73.4%	67.7%	65.9%	63.2%	62.8%	45.9%
達成状況		—	—	—	C	D	D	D	D	D	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成30年度から本格検査(検査4回目)を実施しているが、19歳以上の対象者について、就職や進学に伴い受診率が先行検査(検査1回目)、本格検査(本検査2回目、3回目)に比べ低下している。 なお、対象者には検査の必要性について、理解した上で受診していただいているが、甲状腺検査は任意の検査であるとともに、放射線の健康影響についての受け止め方も様々であることから、対象者の100%の受診率を達成することは困難な状況にある。										
⑦今後の課題	19歳以上の対象者の場合、就職や進学に伴う居住地の異動により、所在地の確実かつ継続的な把握及び受診率が低下していることが課題となっている。 甲状腺通信や検査説明会、出前授業による理解促進を図るとともに、休日検査の実施や検査実施機関の拡充により受診機会を確保し、利便性の向上を図る。 県外転居者の住所のフォローアップのため、転居者には住所変更をお知らせいただくようお願いしていくとともに、住基ネットの活用等により転居者の把握に努める。										



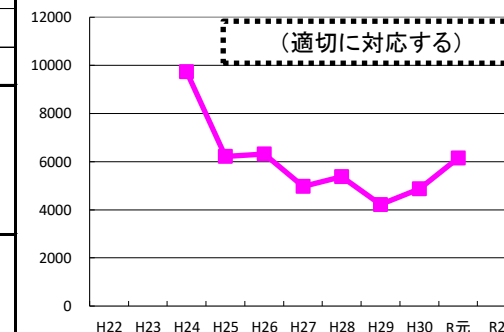
③指標No.、名称	2 ホールボディーカーンター検査の実施状況										
④指標の説明	検査件数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標										
	実績		31,622	91,428	189,249	246,690	282,688	321,745	330,753	338,804	344,762
達成状況		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	県外の8検査機関で検査を継続するとともに、これまで検査を実施していない38都道府県に車載型WBCを派遣し検査を行ったこと、更に県内では市町村の希望に基づく巡回検査に加えて、平成28年4月より指定場所で定期的に行う検査を実施している(令和2年6月末現在、福島市、郡山市、須賀川市、会津若松市、いわき市、白河市、檜葉町、浪江町の36方部8箇所)実施。)今後も、県内受検希望者の利便性に配慮し、検査を実施していく。平成28年12月から障がいのある子どもを対象とした検査を県立医科大学に委託して開始した。										
⑦今後の課題	県有WBCの有効活用を図る必要がある。										



③指標No.、名称	3 ふくしま心のケアセンターにおける年間相談支援件数										
④指標の説明	ふくしま心のケアセンターにおける訪問相談、集団指導での相談、来所相談、電話相談の合計										
⑤指標の推移 目標 実績 達成状況	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
				(適切に対応する)							
			9,740	6,216	6,324	4,972	5,379	4,222	4,876	6,157	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度の相談支援件数は、6,157件で増加している。また、被災者に身近な市町村や生活支援相談員への業務支援は、令和元年度は10,885件であり、平成26年度の9,414件と比べて高い水準を維持している。避難生活の長期化等によるハイリスクな住民への相談対応は他の相談機関等との連携をさらに深めながら、今後とも充実させていく必要がある。										
⑦今後の課題	避難生活の長期化や復興公営住宅等への転居、避難指示解除区域への帰還など、被災者それぞれの状況に応じた心のケアがますます重要となっており、県外避難者も含めた支援体制の充実とともに、支援者への業務支援、アルコール問題への対応、市町村や見守り活動を行う生活支援相談員等との連携をさらに強化していく必要がある。										

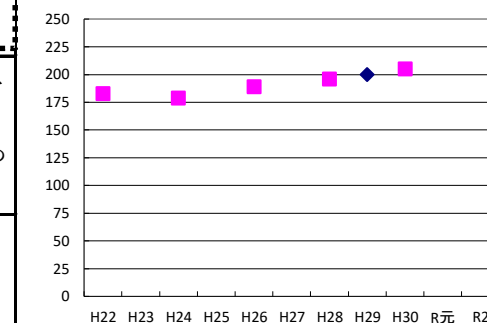


ふくしま心のケアセンターにおける年間相談支援件数



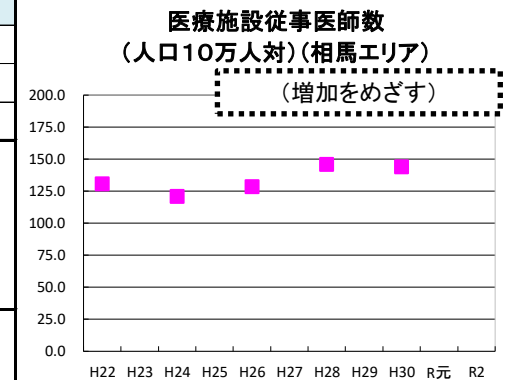
③指標No.、名称	4 医療施設従事医師数(人口10万人対)										
④指標の説明	県内の医療機関に従事している医師数(人口(※)10万人当たり)※総務省公表の人口推計(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移 目標 実績 達成状況	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	182.6		178.7		188.8		195.7	200人以上	204.9	(適切に対応する)	
	—	—	—	—	B	—	B	—	B	H35:213.3名→	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	本県においては、震災前から医師の絶対数が不足していたことに加え、地域偏在についても深刻な状況である。このため、県立医科大学の定員増員や修学資金制度の拡充を実施しているが、医師の輩出までにはまだ期間を要する状況である。「平成30年度医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果を見ても、医師数は着々と増加傾向にあるが、依然として全国平均を大きく下回っている。										
⑦今後の課題	<p>今後は、指標目標値の達成を目指すことと併せて、各地域の実情に踏まえた確保対策を講じ、不足解消及び地域偏在の解消に努めていく。</p> <p>【取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県地域医療支援センターを活用し、修学資金被貸与者や自治医科大学卒業医師等の医師のキャリア形成支援を効果的に実施し、県内定着を図る。</li> <li>・臨床研修医の確保や県外医師の招へいなど、県立医科大学、県内医療機関、行政等が一体となって医師確保対策を実施していく。</li> </ul>										

医療施設従事医師数(人口10万人対)

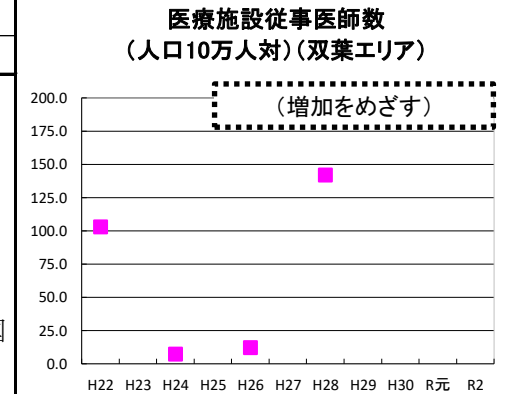


③指標No.、名称	5-1 医療施設従事医師数(人口10万人対)(相馬エリア)										
④指標の説明	相馬エリアの医療機関に従事している医師数(人口(※)10万人当たり) ※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(増加をめざす)										
	実績	130.8		121.0		128.6		146.0		144.2	
達成状況	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	相馬エリアの人口10万人当たりの医師数は、震災前の平成22年は130.8人であったが、震災後の平成24年では121人に減少した。県立医科大学からの支援教員派遣等もあり、平成30年10月1日現在では144.2人まで回復している。ただし、医療現場や地域住民の視点からは充足感はあるとは言えず、継続した確保対策が求められる。 ※平成28年調査時点よりも数値が下がっているのは、南相馬市の医師数が減少した影響が大きい。										
⑦今後の課題	今後は、引き続き医師数の増加を図ると同時に、住民の帰還状況等地域の実情に踏まえた確保対策を講じ、不足解消及び地域偏在の解消に努めていく。										

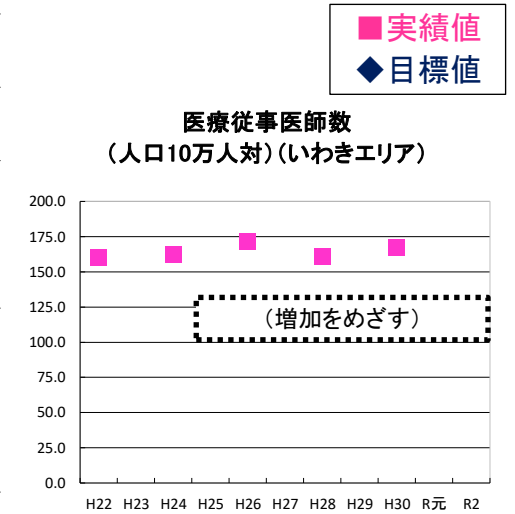
■実績値  
◆目標値



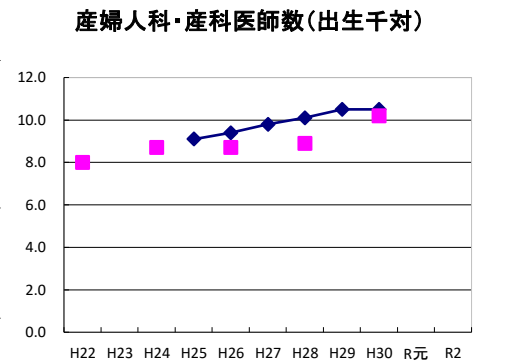
③指標No.、名称	5-2 医療施設従事医師数(人口10万人対)(双葉エリア)										
④指標の説明	双葉エリアの医療機関に従事している医師数(人口(※)10万人当たり) ※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(増加をめざす)										
	実績	103.0		7.4		12.2		142.0		368.4	
達成状況	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	医療機関の休止による医師数の減少幅よりも、長期避難や住民の帰還が進まないことによる現住人口の減少幅が大きいことにより、10万人あたりの医師数が高めに算出されている。今後も住民の帰還など状況の変化により、数値の変動が見込まれる。ただし、休止中の医療機関も多いなど、医療現場や地域住民の視点からは充足感はあるとは言えず、継続した医師確保対策が求められる。 ※ 当指標において引用した人口は以下のとおり。 ・全ての年度において、直近の国勢調査に人口動態(自然動態及び社会動態)による増減を加味した人数を基礎としている(県統計課「福島県の推計人口」より)。 ・H22、H24、H26はH22.10.1の国勢調査による人口を基礎としているが(双葉エリアはH24、H26ともにH22の現住人口を引用している)、H28はH27.10.1の国勢調査の結果を用いるため、双葉エリアの富岡、大熊、双葉、浪江の4町においては人口がゼロで計上されており、H28はH26に比べて指標が高く算出されている。H30は、人口推計が双葉郡で大きく下がっているため、人口あたり医師数が大きく上昇した。										
⑦今後の課題	今後は、引き続き医師数の増加を図ると同時に、住民の帰還状況等地域の実情に踏まえた確保対策を講じ、不足解消及び地域偏在の解消に努めていく。										



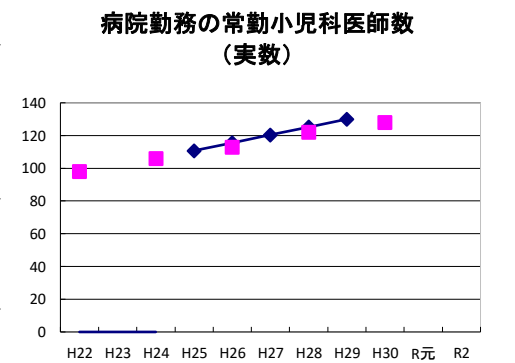
③指標No.、名称	5-3 医療施設従事医師数(人口10万人対)(いわきエリア)										
④指標の説明	いわきエリアの医療機関に従事している医師数(人口(※)10万人当たり) ※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	160.4		162.0		172.0		161.0		167.3		
目標											
実績											
達成状況	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	いわきエリアの人口10万人当たりの医師数は、震災前の平成22年は160.4人であったが、震災後の平成24年は162.0人、平成26年は172.0人となっており、増加傾向にあるが、平成28年度については若干の減少が見られたものの、平成30年度調査の結果、数値は上昇している。 同エリアは被災住民の受入れ等により、医療需要の増大が見込まれており、医療現場や地域住民の視点からは充足感はあるとは言えず、継続した確保対策が求められる。										
⑦今後の課題	今後は、引き続き医師数の増加を図ると同時に、地域の実情に踏まえた確保対策を講じ、不足解消及び地域偏在の解消に努めていく。										



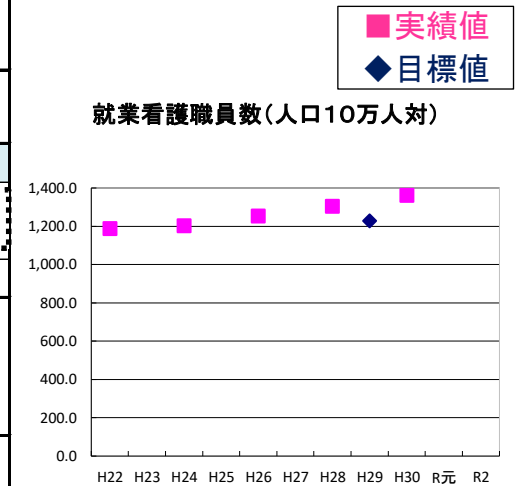
③指標No.、名称	6 産婦人科・産科医師数(出生千対)										
④指標の説明	医療機関に従事している産婦人科・産科医師数(出生千対) ※「医師・歯科医師・薬剤師調査」「人口動態統計」(厚生労働省)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	8.0		8.7	9.1	8.7	9.8	10.1	10.5人以上	10.5人以上		
目標											
実績											
達成状況	-	-	B	-	B	-	B	-	B	-	-
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	出生千人当たりの産婦人科医及び産科医の数は、震災前の平成22年は8.0人であったが、震災後の平成24,26年は8.7人、平成28年は8.9人、平成30年は10.2人となっており、徐々に増加している。										
⑦今後の課題	平成30年における全国の出生千人当たりの産婦人科及び産科医の数は、12.3人であることから、引き続き、産婦人科医及び産科医の確保を図る必要がある。										



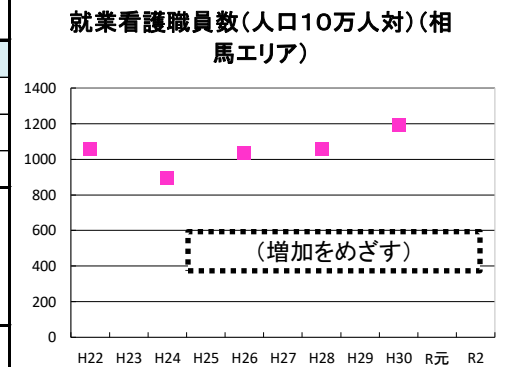
③指標No.、名称	7 病院勤務の常勤小児科医師数(実数)										
④指標の説明	病院に従事している常勤小児科医師数(実数) ※「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	98		106	110.8	113	120.4	125.2	130.0人以上			
目標											
実績											
達成状況	-	-	B	-	B	-	B	-	-	-	-
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	本県における常勤小児科医師数は、震災前の平成22年の98人から、平成30年は128人となっており、徐々に増加している。										
⑦今後の課題	平成30年における人口10万人あたりの小児科医師数は11.9人となっており、全国平均の13.7人を下回っていることから、引き続き、小児科医師の確保を図る必要がある。										



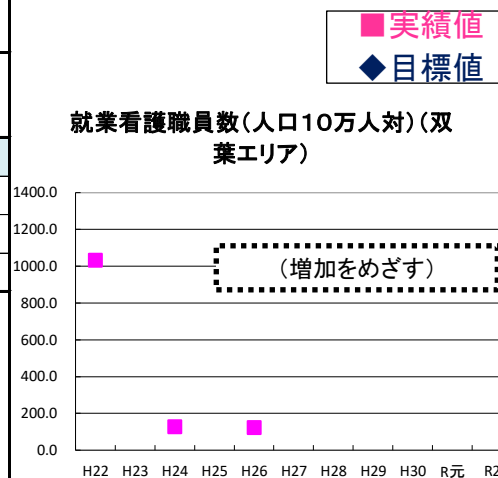
③指標No.、名称	8 就業看護職員数(人口10万人対)										
④指標の説明	県内の保健・医療・福祉関係機関等に従事している人口(※)10万人あたりの看護職員数(保健師・助産師・看護師及び准看護師の数)※総務省公表の人口推計(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	1,188.7		1,203.5		1,253.2		1,303.5	1,228.4 人以上		H35:1,335.0名→	
目標	—										
実績	—										
達成状況	—										
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	看護職員数(常勤換算)は、平成30年時点で、新たに設定した目標値(令和5年)に達しており、全体としては増加傾向にあるが、年代別の推移を見ると50歳未満の看護職員は減少傾向にある。今後も、看護職員需給計画に基づき、若い世代の看護職員の確保も含め、対策を進めていくことにより、増加していく見通しである。										
⑦今後の課題	「復興を担う看護職人材育成支援事業」、「看護職員離職防止・復職支援事業」などの実施により、引き続き看護職員の確保、定着を図る必要がある。										



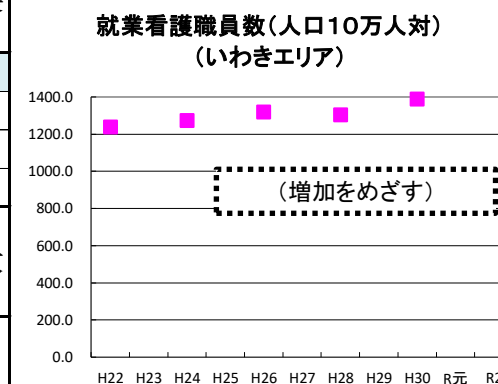
③指標No.、名称	9-1 就業看護職員数(人口10万人対)(相馬エリア)										
④指標の説明	相馬エリアの保健・医療・福祉関係機関等に従事している人口(※)10万人あたりの看護職員数(保健師・助産師・看護師及び准看護師の数)※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	1,055.9		895.0		1,034.2		1,059.6		1,194.0	(増加をめざす)	
目標	—										
実績	—										
達成状況	—										
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	相馬エリアの人口10万人当たりの看護職員数は、震災後の平成24年に大きく減少したが、平成28年以降震災前の水準まで回復している。今後は住民の帰還や他エリアの医療機関の再開などに対応し、さらに看護職員の需要が高まるとみられる。										
⑦今後の課題	看護職員の確保、定着を図るため、「復興を担う看護職人材育成支援事業」及び「看護職員離職防止・復職支援事業」などにより、医療機関の取組を支援するとともに、働き続けられる環境づくりを推進する必要がある。										



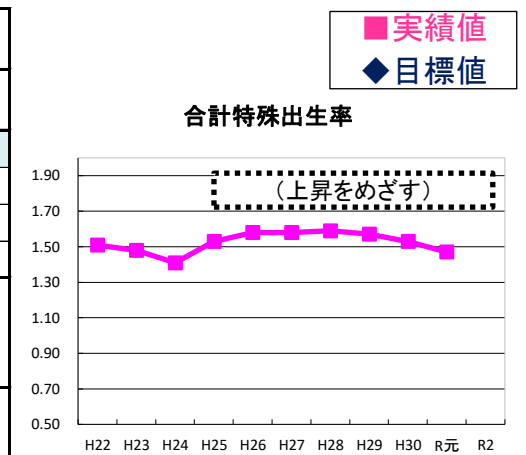
③指標No.、名称	9-2 就業看護職員数(人口10万人対)(双葉エリア)										
④指標の説明	双葉エリアの保健・医療・福祉関係機関等に従事している人口(※)10万人あたりの看護職員数(保健師・助産師・看護師及び准看護師の数)※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	1,031.3		126.2		123.2		3344.9		4,279.3		
目標	(増加をめざす)										
実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成状況											
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	<p>医療機関の休止による看護職員の減少幅よりも、長期避難や住民の帰還が進まないことによる現住人口の減少幅が大きいことにより、10万人あたりの看護職員数が高めに算出されている。今後も住民の帰還など、状況の変化により数値の変動が見込まれるが、地域としては住民の多種多様な医療ニーズの高まりにより、さらに看護職員の需要が高まるとみられる。</p> <p>※ 当指標において引用した人口は以下のとおり。          ・全ての年度において、直近の国勢調査に人口動態(自然動態及び社会動態)による増減を加味した人数を基礎としている(県統計課「福島県の推計人口」より)。          ・H22、H24、H26はH22.10.1の国勢調査による人口を基礎としているが(双葉エリアはH24、H26ともにH22の現住人口を引用している)、H28はH27.10.1の国勢調査の結果を用いるため、双葉エリアの富岡、大熊、双葉、浪江の4町においては人口がゼロで計上されており、H28はH26に比べて指標が高く算出されている。H30は、人口推計が双葉郡で大きく下がっているため、指標が大きく上昇した。</p>										
⑦今後の課題	看護職員の確保、定着を促進するため、「復興を担う看護職人材育成支援事業」及び「看護職員離職防止・復職支援事業」などにより、医療機関の取組を支援するとともに、働き続けられる環境づくりを推進する必要がある。										



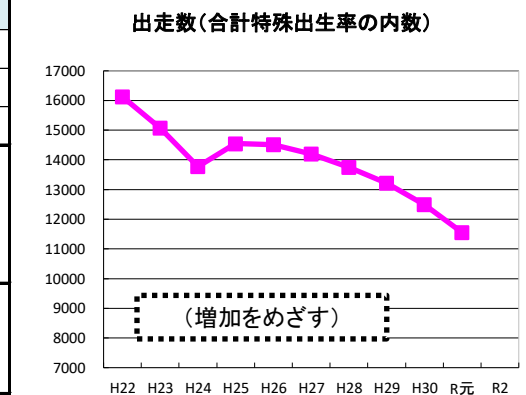
③指標No.、名称	9-3 就業看護職員数(人口10万人対)(いわきエリア)										
④指標の説明	いわきエリアの保健・医療・福祉関係機関等に従事している人口(※)10万人あたりの看護職員数(保健師・助産師・看護師及び准看護師の数)※県統計課公表の現住人口調査年報(各年10月1日現在)を使用										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	1,239.0		1,274.7		1,320.2		1,303.8		1,389.3		
目標	(増加をめざす)										
実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成状況											
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	いわきエリアの人口10万人当たりの看護職員数は、全国平均より高い水準で推移しているが、同エリアは被災住民の受入れ等により、医療需要の増大が見込まれており、医療現場や地域住民の視点からは充足感はあるとは言えず、継続した看護職員確保対策が求められる。										
⑦今後の課題	看護職員の確保、定着を促進するため、「復興を担う看護職人材育成支援事業」及び「看護職員離職防止・復職支援事業」などにより、医療機関の取組を支援するとともに、働き続けられる環境づくりを推進する必要がある。										



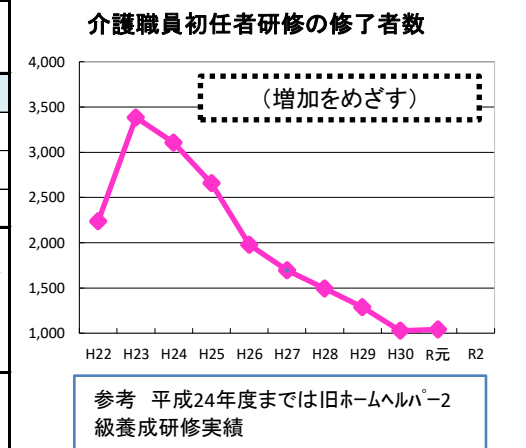
③指標No.、名称	10 合計特殊出生率										
④指標の説明	1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(上昇をめざす)										
	実績	1.51	1.48	1.41	1.53	1.58	1.58	1.59	1.57	1.53	1.47
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	18歳以下を対象にした医療費無料化、子育てや出産に関する電話相談、各自治体ごとの出産祝金など、出産支援、子育て支援の取組は引き続き実施しているが、晩婚化が進み、女性が生む子どもの数が減っている。										
⑦今後の課題	子育てに伴う負担と不安を軽減するため、社会全体で子育てを支援する体制づくりを引き続き推進していく。										



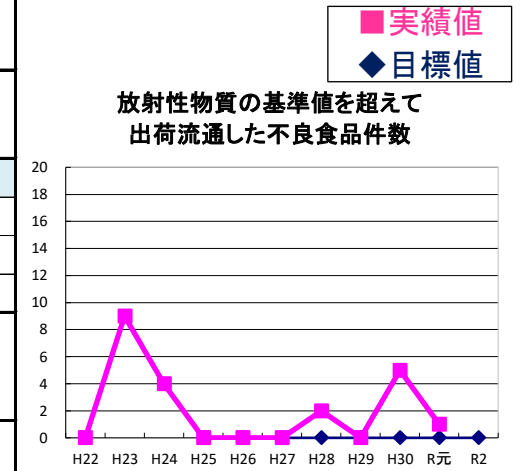
③指標No.、名称	11 出生数(合計特殊出生率の内数)										
④指標の説明	それぞれの年に生まれた子どもの数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(増加をめざす)										
	実績	16,126	15,072	13,770	14,546	14,517	14,195	13,744	13,217	12,495	11,552
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	出産可能な年齢層の女性の人数が減少傾向にあり、これに比例して出生数も減少していくと考えられる。										
⑦今後の課題	子育てに伴う負担と不安を軽減するため、社会全体で子育てを支援する体制づくりを引き続き推進していく。										



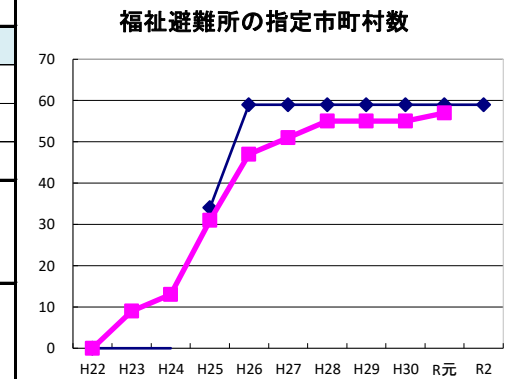
③指標No.、名称	12 介護職員初任者研修の修了者数										
④指標の説明	「介護職員初任者研修事業」について県に提出された研修修了者数の年度計										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(増加をめざす)										
	実績	2,235	3,384	3,104	2,656	1,976	1,697	1,492	1,287	1,027	1,043
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成24年度まではホームヘルパー2級養成研修終了者数であるが、平成25年度からは制度改正となり「介護職員初任者研修」として実施している。制度変更により、受講者数が減少した。										
⑦今後の課題	適切に研修が行われるよう、研修事業を推進する。										



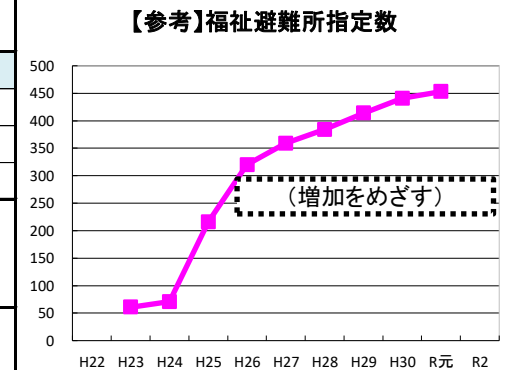
③指標No.、名称	13 放射性物質の基準値を超えて出荷流通した不良食品件数										
④指標の説明	県内で生産・製造等された食品(農林水産物、加工食品)で、食品衛生法に基づく放射性物質の基準値を超えて出荷流通した違反食品件数を計上する。										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標			0	0	0	0	0	0	0	0
	実績	0	9	4	0	0	0	2	0	5	1
達成状況	—	—	—	—	A	A	D	A	D	D	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	食品衛生法上の基準値を超過し、流通した食品が1件確認された。										
⑦今後の課題	引き続き、食品関係事業者へ出荷前検査の指導徹底を図り、不良食品の発生の防止に努める。										



③指標No.、名称	14 福祉避難所の指定市町村数										
④指標の説明	福祉避難所を指定している市町村数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	—	—	—	34	59	59	59	59	59	59
	実績	—	9	13	31	47	51	55	55	55	57
達成状況	—	—	—	—	C	B	B	B	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	新たに2町村が指定。 未指定の双葉町・大熊町は、今後の帰還状況等に応じて指定予定。										
⑦今後の課題	災害時において効果的な避難行動がとれるよう実効性を確保する必要があることから、県災害対策課と連携し市町村の福祉避難所開設・運営訓練を支援していく。また、未指定の双葉町・大熊町へは帰還と併せて個別支援に取り組む。										



③指標No.、名称	15 【参考】福祉避難所指定数												
④指標の説明	指定を受けている福祉避難所の数												
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2		
	目標	—	—	—	(増加をめざす)							—	—
	実績	—	61	71	216	320	359	384	414	441	453		
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	前年度より12施設増加しており、着実に指定施設が増えている。												
⑦今後の課題	災害時に福祉避難所が円滑に開設されるよう県災害対策課と連携し市町村の福祉避難所開設訓練を支援していく。また、未指定の双葉町・大熊町へは帰還と併せて個別支援に取り組む。												





# 指標の進行状況

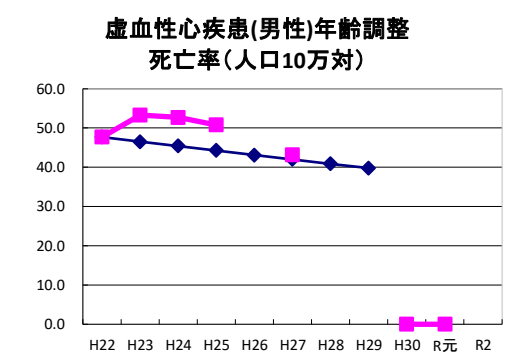
①基本目標	2 全国に誇れる健康長寿の県づくり
②施策	(1) 復興へ向けた心身の健康管理対策の推進(再掲) (2) 心身の健康を維持、増進するための環境づくりの推進 (3) 生活習慣病を予防するための環境づくりの推進 (4) がん予防・医療の推進 (5) 高齢者の介護予防の推進 (6) 健全な食生活を育むための食育の推進 (7) 感染症対策の推進 (8) 歯科口腔保健の推進

(注)⑥指標の推移  
 <目標値がある指標の達成状況>

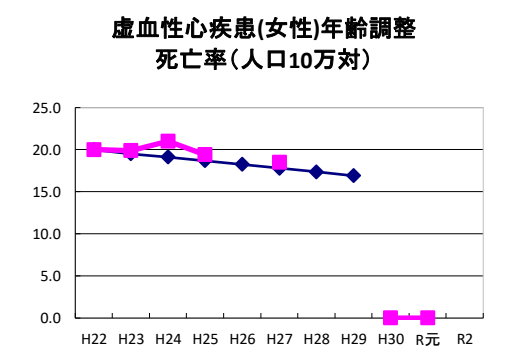
A(100%以上) B(80%~100%未満)  
 C(70%~80%未満) D(70%未満)  
 ※増加を目指す指標→実績/目標  
 ※減少を目指す指標→目標/実績

■実績値  
 ◆目標値

③指標No.、名称	16 虚血性心疾患(男性)年齢調整死亡率(人口10万対)										
④指標の説明	年齢構成の異なる地域間での虚血性心疾患(男性)の死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率(人口10万対)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	47.7	46.5	45.4	44.3	43.1	42.0	40.9	39.8	以下	(暫定値設定なし)	
	47.7	53.3 ※	52.7 ※	50.8 ※	—	43.2	—	—	—	—	—
達成状況	—	—	—	B	—	B	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	直近データでは43.2となった。(5年ごとに公表) ※1 県独自に算出した参考値										
⑦今後の課題	発症と重症化を防ぐため、一次予防(発症予防)と二次予防(早期発見・早期治療)の徹底を図る。										

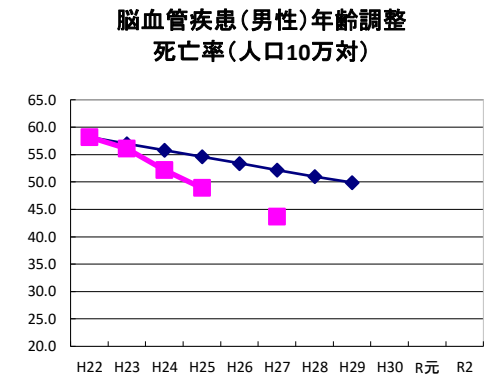


③指標No.、名称	17 虚血性心疾患(女性)年齢調整死亡率(人口10万対)										
④指標の説明	年齢構成の異なる地域間での虚血性心疾患(女性)の死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率(人口10万対)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	20.0	19.5	19.1	18.7	18.2	17.8	17.4	16.9	以下	(暫定値設定なし)	
	20.0	19.9 ※	21.0 ※	19.4 ※	—	18.5	—	—	—	—	—
達成状況	—	—	—	B	—	B	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	直近データでは18.5となった。(5年ごとに公表) ※1 県独自に算出した参考値										
⑦今後の課題	発症と重症化を防ぐため、一次予防(発症予防)と二次予防(早期発見・早期治療)の徹底を図る。										

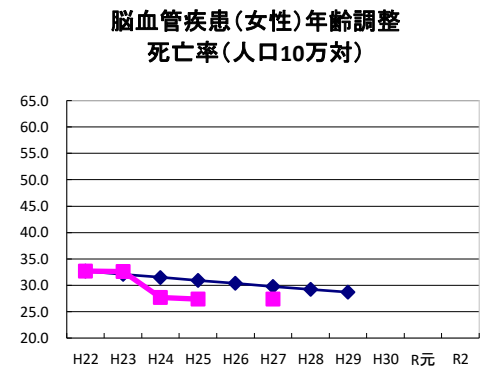


③指標No.、名称	18 脳血管疾患(男性)年齢調整死亡率(人口10万対)											
④指標の説明	年齢構成の異なる地域間での脳血管疾患(男性)の死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率(人口10万対)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	58.2	57.0	55.8	54.6	53.4	52.2	51.0	49.9 以下	—	—	—	
	58.2	56.1 ※	52.2 ※	48.9 ※	—	43.7	—	—	—	—	—	
達成状況	—	—	—	A	—	A	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	直近データでは43.7となった。(5年ごとに公表) ※1 県独自に算出した参考値											
⑦今後の課題	発症と重症化を防ぐため、一次予防(発症予防)と二次予防(早期発見・早期治療)の徹底を図る。											

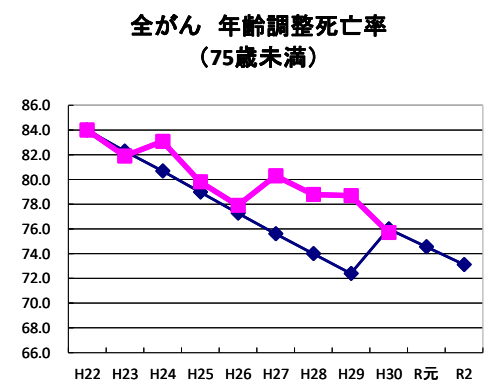
■実績値  
◆目標値



③指標No.、名称	19 脳血管疾患(女性)年齢調整死亡率(人口10万対)											
④指標の説明	年齢構成の異なる地域間での脳血管疾患(女性)の死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率(人口10万対)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	32.7	32.1	31.5	30.9	30.4	29.8	29.2	28.7 以下	—	—	—	
	32.7	32.6 ※	27.7 ※1	27.4 ※1	—	27.4	—	—	—	—	—	
達成状況	—	—	—	A	—	A	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	直近データでは27.4となった。(5年ごとに公表) ※1 県独自に算出した参考値											
⑦今後の課題	発症と重症化を防ぐため、一次予防(発症予防)と二次予防(早期発見・早期治療)の徹底を図る。											

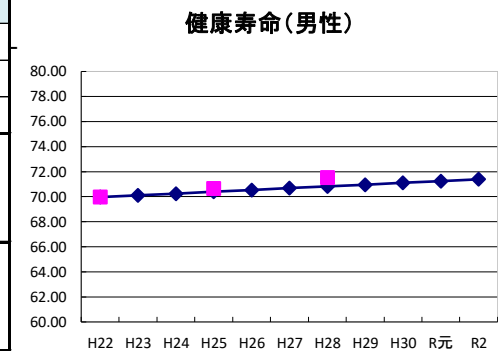


③指標No.、名称	20 全がん 年齢調整死亡率(75歳未満)											
④指標の説明	年齢構成の異なる地域間での全がんの死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率(人口10万対)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	84.0	82.3	80.7	79.0	77.3	75.6	74.0	72.4 以下	76.0	74.6	73.1	
	84.0	81.9	83.1	79.8	77.9	80.3	78.8	78.7 以下	75.7 以下	—	—	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	A	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	実績値:都道府県別75歳未満年齢調整死亡率(国立がん研究センターがん情報サービス) 見通し:ほぼ目標値に沿って減少傾向にあったが、H27年度以降減少が鈍化し、H30年度は減少に転じたが今後の推移を注視する必要がある。H30年度以降の目標値は、第三期計画の計画期間の現状値(H27年)と目標年度の目標値から減少率を案分し算出											
⑦今後の課題	発症と重症化を防ぐため、一次予防(発症予防)と二次予防(早期発見・早期治療)の徹底を図る											

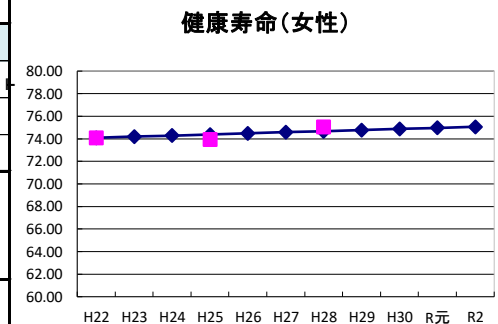


③指標No.、名称	21 健康寿命(男性)											
④指標の説明	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間(男性)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	69.97	70.11	70.25	70.40	70.54	70.68	70.82	70.96	71.11	71.25	71.39
	実績	69.97	—	—	70.67	—	—	71.54	—	現在未公表		
達成状況	—	—	—	A	—	—	A	—	—			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	健康寿命が延び、全国順位は41位から36位に上昇している。											
⑦今後の課題	今後とも、健康寿命延伸に向けた健康づくり対策の実施が必要。											

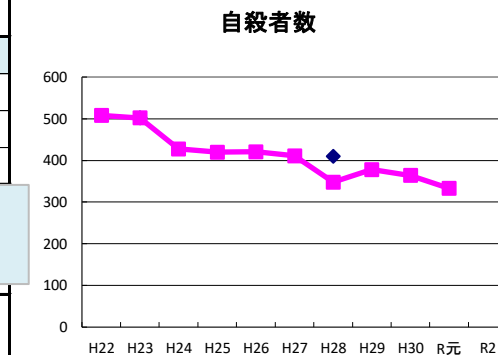
■実績値  
◆目標値



③指標No.、名称	22 健康寿命(女性)											
④指標の説明	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間(女性)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	74.09	74.19	74.29	74.38	74.48	74.58	74.68	74.78	74.87	74.97	75.07
	実績	74.09	—	—	73.96	—	—	75.05	—	現在未公表		
達成状況	—	—	—	B	—	—	A	—	—			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	健康寿命が短くなっており、全国順位も16位から35位に低下している。											
⑦今後の課題	今後とも、健康寿命延伸に向けた健康づくり対策の実施が必要。											

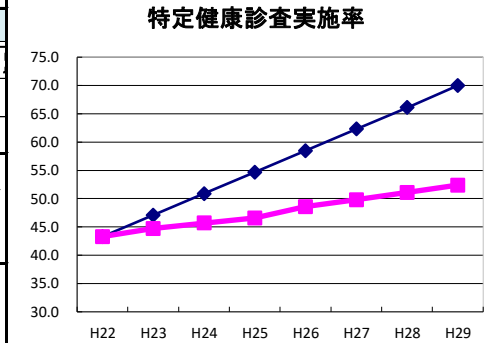


③指標No.、名称	23 自殺者数										
④指標の説明	1年間(1月から12月まで)の自殺者数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標		502	(暫定値設定なし)	(暫定値設定なし)		410人以下	(暫定値設定なし)	(暫定値設定なし)		
	実績	508	502	428	420	421	411	348	378	364	333
達成状況	—	—	—	—	B	A	A	B	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	人口動態統計では令和元年の自殺者数は333人(概数)であり、前年と比較して31人減少している。過去の震災では、震災後、数年が経過してから自殺者が増加したことから、今後の推移を注視する必要がある。 <b>【参考】H33 (目標)310人以下</b>										
⑦今後の課題	被災者の心のケアを着実に実施するとともに、各種相談機関との連携強化や住民に身近な市町村における自殺対策の推進など、今後とも自殺対策を着実に実施していく必要がある。										

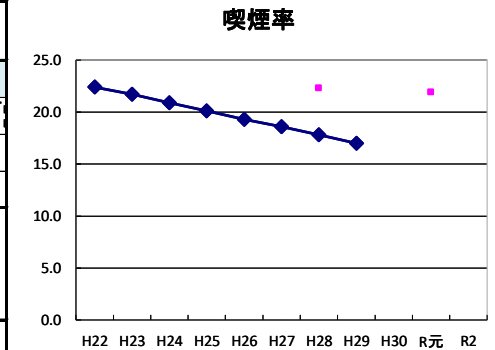


■実績値  
◆目標値

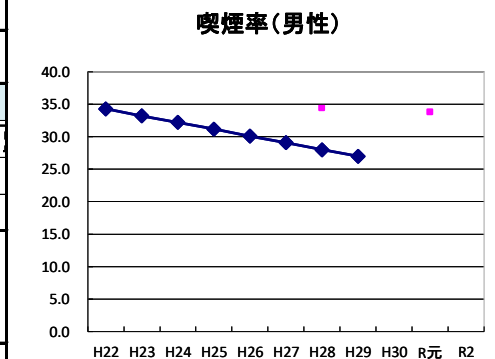
③指標No.、名称	24 特定健康診査実施率										
④指標の説明	40歳から74歳までの特定健康診査対象者の特定健康診査実施率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	43.3	47.1	50.9	54.7	58.5	62.3	66.1	70.0 %以上	(暫定値設定なし)		
	43.3	44.7	45.7	46.6	48.6	49.8	51.1	52.4 %	現在未公表		
達成状況	—	—	B	B	B	C	C	C	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	特定健診の実施率は、全国平均並みに年々上昇しているが、受診者数は対象者の半数程度に留まっており、各保険者間のバラツキが大きい。										
⑦今後の課題	一次予防と併せて、各保険者における実施状況の把握や特定健診の受診率向上に向けた普及啓発等の取組を行う必要がある。また、原子力災害等により長期化している避難者への生活習慣病の予防・早期発見・早期対応等の取組も重要となっている。										



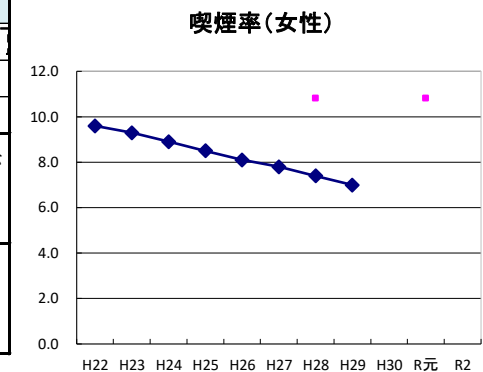
③指標No.、名称	25 喫煙率										
④指標の説明	県民の内、喫煙をしている者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	22.4	21.7	20.9	20.1	19.3	18.6	17.8	17.0 %以下	(暫定値設定なし)		
	22.4	21.7	20.9	20.1	19.3	18.6	22.3	21.9			
達成状況	—	—	—	—	—	—	C	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	H17年度、H21年度に「県民健康調査」(当時の調査名称)により指標を設定したが、H30年度まで調査を実施していなかったため、県がん対策推進計画改定により指標を3年に1回、国が行う「国民生活基礎調査」による「毎日または時々吸う日がある」者の割合に変更した。(直近結果H28年) 目標年は健康ふくしま21計画と整合性を図りH34年としている。										
⑦今後の課題	R4年度の目標値12%を目指し喫煙率の減少に向けた取組を更に推進する必要がある。										



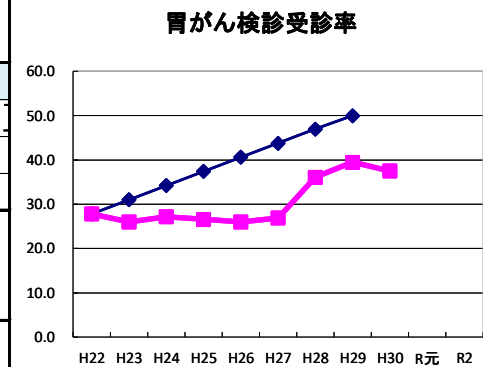
③指標No.、名称	26 喫煙率(男性)										
④指標の説明	県民男性の内、喫煙している者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	34.3	33.2	32.2	31.2	30.1	29.1	28.0	27.0 %以下	(暫定値設定なし)		
	34.3	33.2	32.2	31.2	30.1	29.1	34.4	33.8			
達成状況	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	H17年度、H21年度に「県民健康調査」(当時の調査名称)により指標を設定したが、H30年度まで調査を実施していなかったため、県がん対策推進計画改定により指標を3年に1回、国が行う「国民生活基礎調査」による「毎日または時々吸う日がある」者の割合に変更した。(直近結果H28年) 目標年は健康ふくしま21計画と整合性を図りH34年としている。										
⑦今後の課題	R4年度の目標値19%を目指し喫煙率の減少に向けた取組を更に推進する必要がある。										



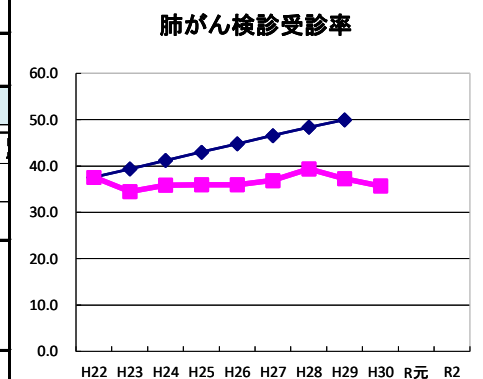
③指標No.、名称	27 喫煙率(女性)										
④指標の説明	県民女性の内、喫煙をしている者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	9.6	9.3	8.9	8.5	8.1	7.8	7.4	7.0 %以下	(暫定値設定なし)		
	—	—	—	—	—	—	10.8	—	—	10.8	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	H17年度、H21年度に「県民健康調査」(当時の調査名称)により指標を設定したが、H30年度まで調査を実施していなかったため、県がん対策推進計画改定により指標を3年に1回、国が行う「国民生活基礎調査」による「毎日または時々吸う日がある」者の割合に変更した。(直近結果H28年)目標年は健康ふくしま21計画と整合性を図りH34年としている。										
⑦今後の課題	R4年度の目標値5.4%を目指し喫煙率の減少に向けた取組を更に推進する必要がある。										



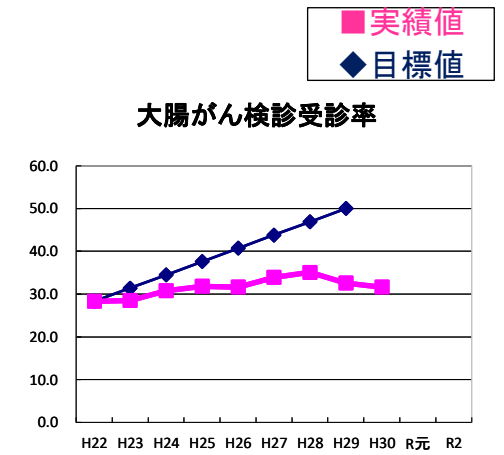
③指標No.、名称	28 胃がん検診受診率										
④指標の説明	市町村が実施する胃がん検診受診率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	27.8	31.0	34.2	37.4	40.6	43.8	47.0	50.0 %以上	(暫定値設定なし)		
	—	—	—	C	D	D	C	C	C		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	受診率は、目標値には達していないが、前年度より増加し、H22年度以降最も高い受診率であったが、30年度は減少している。※28年度より検診間隔は2年に1回、検診対象年齢は50歳以上に変更になったことに伴い受診率の算出式も変更。										
⑦今後の課題	検診を受けやすい環境整備やがん検診受診の啓発活動などに引き続き取り組むとともに、より効果的な受診環境づくりに向け、取り組みを推進する必要がある。										



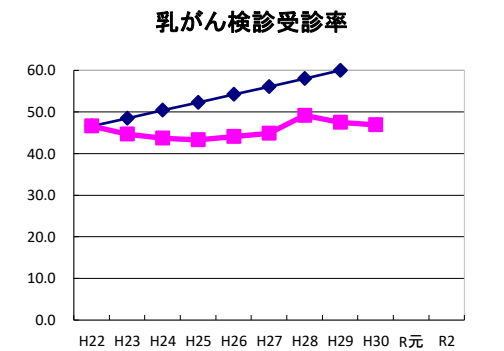
③指標No.、名称	29 肺がん検診受診率										
④指標の説明	市町村が実施する肺がん検診受診率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	37.6	39.4	41.2	43.0	44.8	46.6	48.4	50.0 %以上	(暫定値設定なし)		
	—	—	—	B	B	C	B	C	C		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	受診率は、目標値には達していない。H28年度は22年度以降最も高い受診率であったが、29年度以降はわずかに減少している。										
⑦今後の課題	検診を受けやすい環境整備やがん検診受診の啓発活動などに引き続き取り組むとともに、より効果的な受診環境づくりに向け、取り組みを推進する必要がある。										



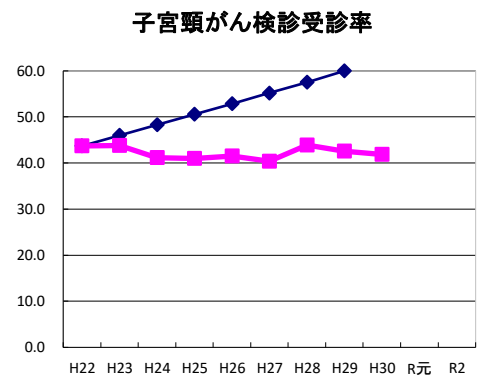
③指標No.、名称	30 大腸がん検診受診率										
④指標の説明	市町村が実施する大腸がん検診受診率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	28.3	31.4	34.5	37.6	40.7	43.8	46.9	50.0 %以上	(暫定値設定なし)	
	実績	28.3	28.5	30.8	31.8	31.6	33.9	35.1	32.6	31.6	
達成状況	—	—	—	B	C	C	C	C	D		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	受診率は、目標値には達していない。H28年度は22年度以降最も高い受診率であったが、29年度以降はわずかに減少している。										
⑦今後の課題	検診を受けやすい環境整備やがん検診受診の啓発活動などに引き続き取り組むとともに、より効果的な受診環境づくりに向け、取り組みを推進する必要がある。										



③指標No.、名称	31 乳がん検診受診率										
④指標の説明	市町村が実施する乳がん検診受診率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	46.6	48.5	50.4	52.3	54.2	56.1	58.0	60.0 %以上	(暫定値設定なし)	
	実績	46.6	44.7	43.7	43.3	44.1	44.9	49.2	47.5	46.9	
達成状況	—	—	—	B	B	B	B	C	C		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	受診率は、目標値には達していない。H28年度は22年度以降最も高い受診率であったが、29年度以降はわずかに減少している。										
⑦今後の課題	検診を受けやすい環境整備やがん検診受診の啓発活動などに引き続き取り組むとともに、より効果的な受診環境づくりに向け、取り組みを推進する必要がある。										

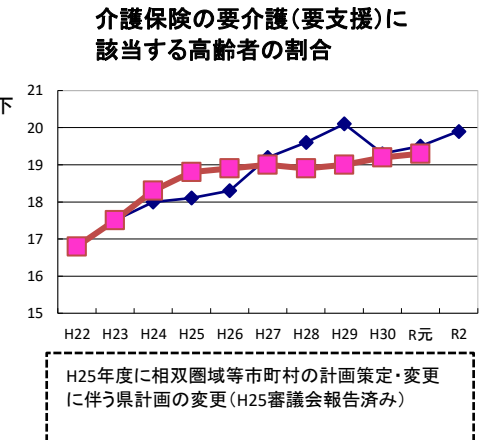


③指標No.、名称	32 子宮頸がん検診受診率										
④指標の説明	市町村が実施する子宮がん検診受診率										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	43.7	46.0	48.3	50.6	52.9	55.2	57.5	60.0 %以上	(暫定値設定なし)	
	実績	43.7	43.8	41.2	41.0	41.5	40.4	43.9	42.6	41.9	
達成状況	—	—	—	B	C	C	C	C	D		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	受診率は、目標値には達していない。H28年度は22年度以降最も高い受診率であったが、29年度以降はわずかに減少している。										
⑦今後の課題	検診を受けやすい環境整備やがん検診受診の啓発活動などに引き続き取り組むとともに、より効果的な受診環境づくりに向け、取り組みを推進する必要がある。										

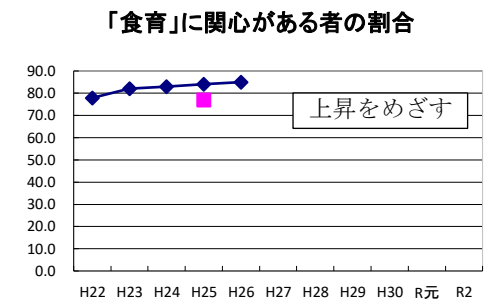


③指標No.、名称	33 介護保険の要介護(要支援)に該当する高齢者の割合											
④指標の説明	第八次福島県高齢者福祉計画・第七次福島県介護保険事業支援計画における介護保険第1号被保険者の要介護(要支援)認定率											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	17.5	18.0	18.1	18.3	19.2	19.6	20.1	19.3	19.5	19.9 %以下
	実績	16.8	17.5	18.3	18.8	18.9	19.0	18.9	19.0	19.2	19.3	
達成状況	—	—	—	—	—	A	A	A	A	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	被災地における避難者の生活不活発病の増加などにより、要介護(要支援)高齢者が増加傾向にあるものの、高齢者全体の人口の増加により目標を達成している。											
⑦今後の課題	仮設住宅等における生活機能支援事業や、相談支援専門職チームによる支援事業など、介護予防事業等をより効果的に実施していく必要がある。											

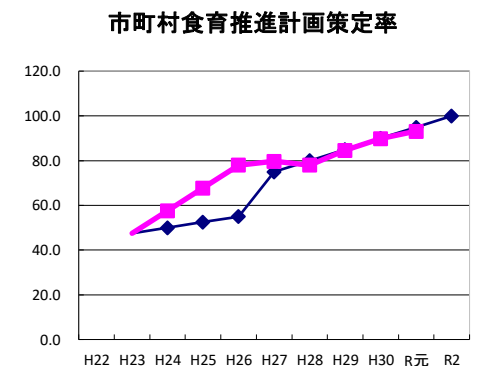
■実績値  
◆目標値



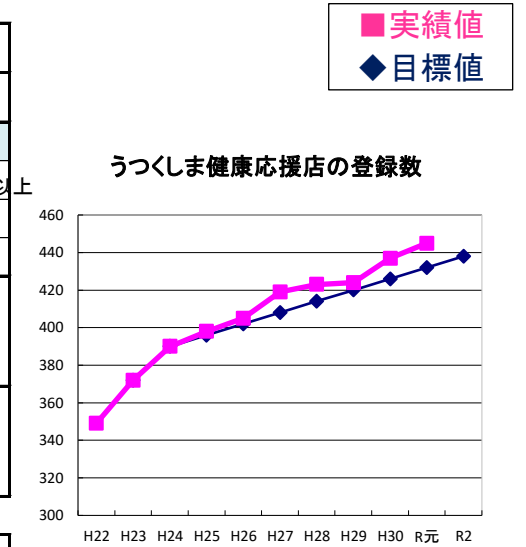
③指標No.、名称	34 「食育」に関心がある者の割合										
④指標の説明	福島県民の「食育」に関心がある者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	77.9	82.0	83.0	84.0	85.0 %以上			(上昇を目指す)		
	実績	—	—	—	76.9	—	—	—	—	現在未公表	
達成状況	—	—	—	B	—	—	—	—	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成25年度目標値84%に対し、現況値は76.9%と目標に達しておらず、県民に広く普及啓発を図る必要がある。なお、現況値の把握は県政世論調査を利用しており、定期的な把握は難しい。										
⑦今後の課題	現在この項目について評価指標としていない。										



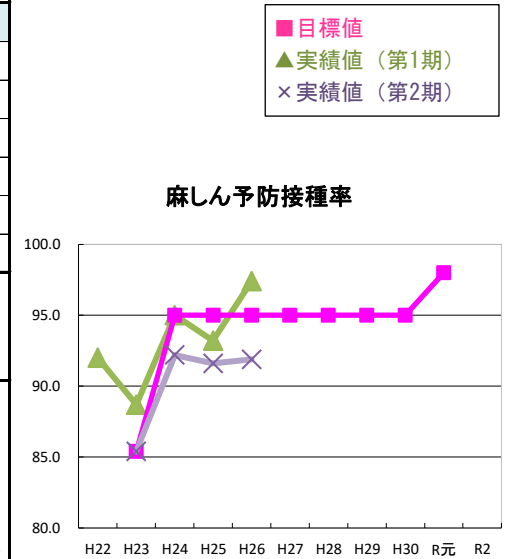
③指標No.、名称	35 市町村食育推進計画策定率											
④指標の説明	市町村が食育推進計画を策定した策定率											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	47.5	50.0	52.5	55.0	75.0	80.0	85.0	90.0	95.0 %以上	100.0
	実績	—	47.5	57.6	67.8	78.0	79.7	78.0	84.7 %	89.8	93.2	
達成状況	—	—	—	—	—	A	B	B	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度は新たに1村が作成したが、目標には達していない。なお、第三次福島県食育推進計画の策定では、目標値を平成32年度に100%とした。											
⑦今後の課題	小規模町村や被災町村において策定されていないため、市町村における健康増進計画等へ食育に関する項目を入れるなど、策定しやすいような働き掛けを継続する。											



③指標No.、名称	36 うつくしま健康応援店の登録数											
④指標の説明	福島県内におけるうつくしま健康応援店の登録数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	372	390	396	402	408	414	420	426	432	438 店以上
	実績	349	372	390	398	405	419	423	424	437	445	
達成状況	—	—	—	—	—	A	A	A	A	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度目標値426店舗に対し、現況値は445店舗と目標値を達成した。											
⑦今後の課題	登録店舗数の拡大にとどまらず、取組内容の充実により地域の栄養改善につながるような食環境整備の事業展開を図る必要がある。											

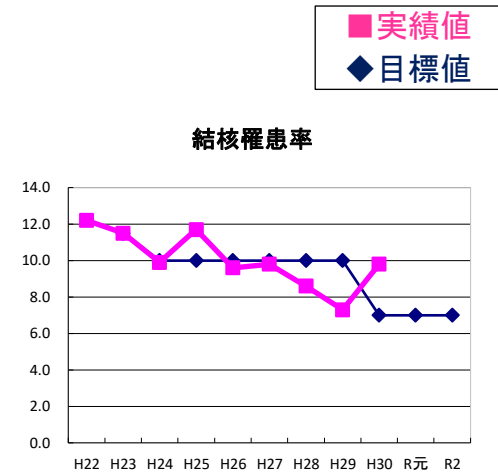


③指標No.、名称	37 麻しん予防接種率											
④指標の説明	予防接種法に基づく対象年齢層における予防接種割合											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標(第1期)	—	88.7	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	98.0	98.0 %以上	98.0	
	目標(第2期)	—	85.4	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0 %以上	98.0	
	実績(第1期)	92.0	88.7	95.0	93.2	97.4	94.2	97.7	94.6	98.9 (暫定値)	現在未公表	
	実績(第2期)		85.4	92.2	91.6	91.9	92.2	92.9	92.8	93.4 (暫定値)	現在未公表	
	達成状況(第1期)	—	—	—	—	A	B	A	B	A		
達成状況(第2期)	—	—	—	—	B	B	B	B	B			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	震災による県外避難者の実績が、正確には反映させれていない場合がある。 (暫定値)											
⑦今後の課題	<p>予防接種率の向上のため、予防接種の受けやすい環境づくりを、市町村に対し積極的に働きかける。</p> <p>「福島県麻しん対策指針」に基づき、4月、11月を「麻しんの予防接種強化月間」として定め、県民への周知を図り、4半期ごとの接種率の調査を行い、市町村へ情報提供を行うことで、接種率の向上に努める。</p> <p>予防接種率の向上のため、市町村に対して定期予防接種の対象者への個別通知、未接種者の把握と接種勧奨を行うよう指導するとともに、保健関係部門だけではなく、市町村に対して積極的な働きかけを行う。</p>											

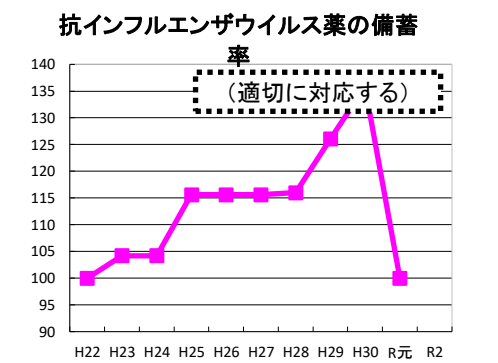




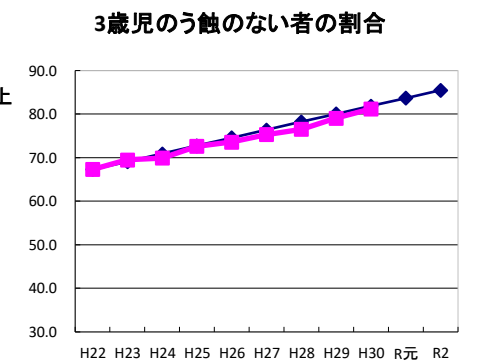
③指標No.、名称	38 結核罹患率											
④指標の説明	人口10万人あたりの新規登録患者数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	11.5	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	7.0	7.0	7.0 以下
	実績	12.2	11.5	9.9	11.7	9.6	9.8	8.6	7.3	9.8	現在未公表	
達成状況	—	—	—	—	A	A	A	A	C	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標値を達成し、全国平均値より低い罹患率で推移している。											
⑦今後の課題	<p>高齢者の患者の割合が高い。高齢者は症状が出にくいいため、早めの診断・治療が必要である。本県は診断の遅れが目立っていることも踏まえ、結核対策特別促進事業を通じたモデル診査会、結核対策技術者研修会等の実施により、早期診断・治療のための適正医療の普及を図る必要がある。</p> <p>また、受診の遅れも見られることから、結核は過去の病気と思われがちだが、現在でも重大な感染症であること等、正しい知識及び予防のための県民に対する普及啓発が必要である。</p>											



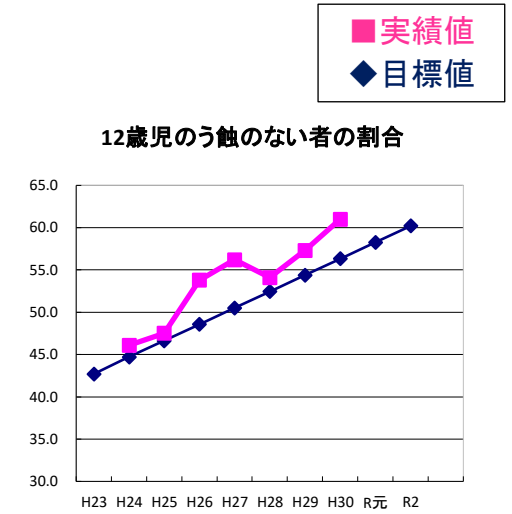
③指標No.、名称	39 抗インフルエンザウイルス薬の備蓄率												
④指標の説明	国が示す抗インフルエンザウイルス薬の備蓄目標量に対する備蓄量の割合												
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2		
	目標				(国が示す備蓄目標値を踏まえ適切に対応する)								
	実績	100.0	104.2	104.2	115.6	115.6	115.6	116.0	126.1	135.8	100.0		
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成30年6月に国が新たに示した「抗インフルエンザウイルス薬の備蓄方針等について」の備蓄目標総数は達成している。												
⑦今後の課題	平成30年6月に国が新たに示した「抗インフルエンザウイルス薬の備蓄方針等について」に基づき、今後も適正な抗インフルエンザウイルス薬の備蓄に努める。												



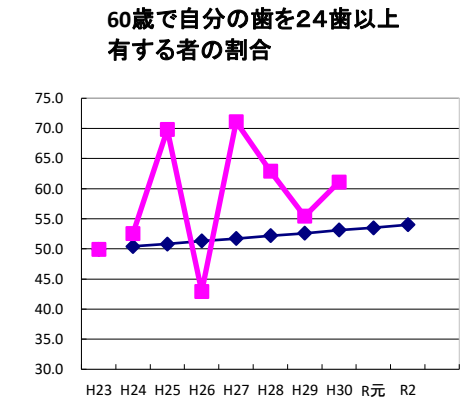
③指標No.、名称	40 3歳児のう蝕のない者の割合											
④指標の説明	3歳児のう蝕のない者の割合(%)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	67.3	69.1	70.9	72.8	74.6	76.4	78.2	80.0	81.9	83.7	85.5 %以上
	実績	67.3	69.5	69.9	72.6	73.6	75.3	76.5	79.1	81.2		
達成状況	—	—	B	B	B	B	B	B	B			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	改善傾向にあるものの、全国と比較し高い状況となっていることから、幼児期におけるフッ化物を活用したむし歯予防対策を強化する必要がある。											
⑦今後の課題	東北地方、九州地方でむし歯が多い傾向にあるが、その要因は明らかにされていない。年度終了後、市町村データを取りまとめることから、結果が把握できる時期が2年後となっている。											



③指標No.、名称	41 12歳児のう蝕のない者の割合											
④指標の説明	12歳児のう蝕のない者の割合(%)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	40.8	42.7	44.7	46.6	48.6	50.5	52.4	54.4	56.3	58.3	60.2 %以上
	実績	40.8		46.1	47.5	53.8	56.2	54.1	57.3	61.0		
達成状況	—	—	—	A	A	A	A	A	A			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標値に達しているものの、全国平均に達していない。											
⑦今後の課題	むし歯予防に効果的なフッ化物の利用等について周知を図る必要がある。											



③指標No.、名称	42 60歳で自分の歯を24歯以上有する者の割合											
④指標の説明	(60歳代で24歯以上歯を保有している者/60歳代検診受診者数)×100											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	49.9	50.4	50.8	51.3	51.7	52.2	52.6	53.1	53.5	54.0 %以上
	実績	—	49.9	52.5	69.8	42.9	71.1	62.9	55.4	61.1		
達成状況	—	—	A	A	B	A	A	A	A			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標に対し順調に推移している。											
⑦今後の課題	成人期における歯周疾患予防のための定期的な歯科検診、歯石除去を受ける者の割合が低いため、成人に対する働き掛けが必要である。 調査が検診を実施している市町村に限られているなど、結果の客観性が低いため、客観性の高い調査の実施が必要である。											



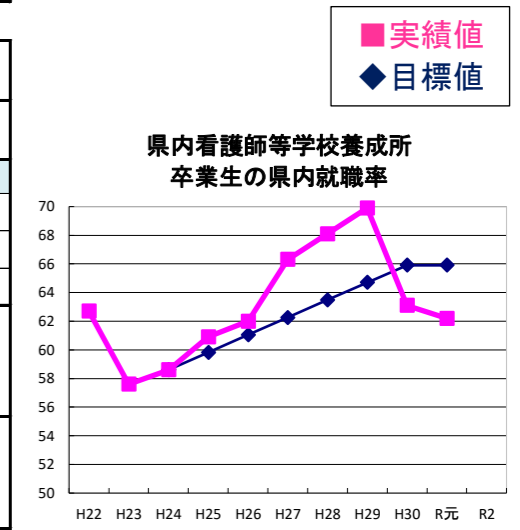
## 指標の進行状況

①基本目標	3 地域医療の再生と最先端医療の推進
②施策	(1) 医療提供体制の回復(再掲) (2) 医師、看護師等の確保と資質の向上 (3) 安全、安心な医療サービスの確保 (4) 最先端医療体制の整備(再掲) (5) 血液の確保と医薬品の有効性・安全性の確保

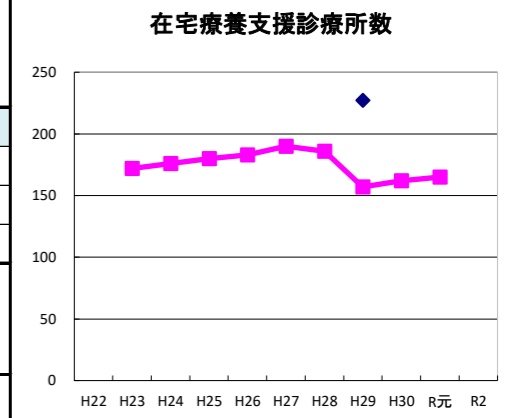
(注)⑥指標の推移  
<目標値がある指標の達成状況>

A(100%以上) B(80%~100%未満)  
C(70%~80%未満) D(70%未満)  
※増加を目指す指標→実績/目標  
※減少を目指す指標→目標/実績

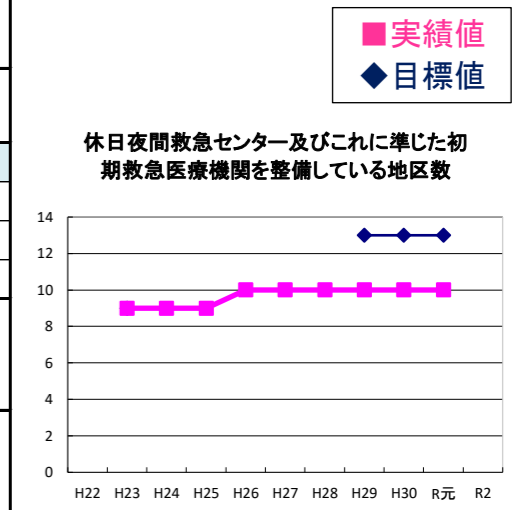
③指標No.、名称	43 県内看護師等学校養成所卒業生の県内就職率										
④指標の説明	県内の看護師等学校養成所の卒業生の内、県内の病院、診療所等に就職する者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標		58.6	59.8	61.0	62.3	63.5	64.7	65.9	65.9	%
	実績	62.7	57.6	58.6	60.9	62.0	66.3	68.1	69.9	63.1	62.2
達成状況		—	—	—	—	A	A	A	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	福島県看護職員需給計画に基づき「次代の看護を担う人材育成」を目標に掲げ、中高生を対象にした県内養成所説明会や看護学生向け就職説明会など養成所及び学生を対象にした様々な事業を重層的に実施したが、目標を達成できなかった。										
⑦今後の課題	各説明会の広報・周知を積極的に行うなど、引き続き、取組を継続していく。										



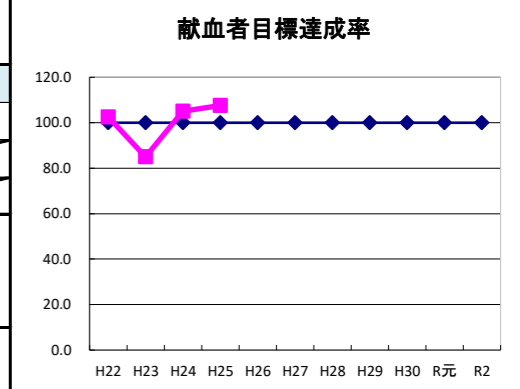
③指標No.、名称	44 在宅療養支援診療所数										
④指標の説明	診療報酬施設基準届出(東北厚生局福島事務所) (※H23年度はH23.1月末現在、H24~H27年度は3月末現在、H28年度はH29.3.1現在、H29年度はH30.2.1現在、H30年度はH31.3.1現在、R元年度はR2.3.1現在)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標				(暫定値設定なし)			227 <small>小所以上</small>	現在未公表	現在未公表	
	実績	172	172	176	180	183	190	186	157	162	165
達成状況		—	—	—	B	B	B	D	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度は前年度と比較して増加している。										
⑦今後の課題	各医療圏における医療情報ネットワーク整備による病診連携の促進や、地域包括ケアシステムの推進などにより、在宅医療を取り巻く環境を改善しながら在宅療養支援診療所の増加を図っていく。										



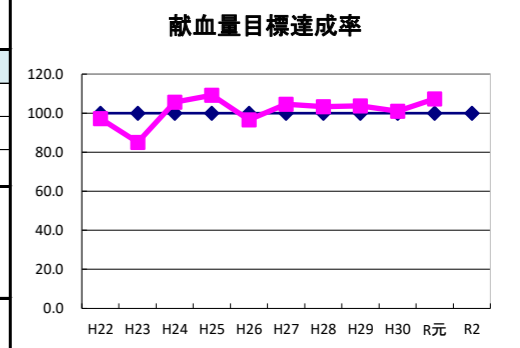
③指標No.、名称	45 休日夜間急患センター及びこれに準じた初期救急医療機関を整備している地区数										
④指標の説明	休日夜間急患センター及びこれに準じた初期救急医療機関を整備している地区数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
		9			(暫定値設定なし)			13 地区以上	13	13	
	目標		9	9	9	10	10	10	10	10	
実績		9	9	9	10	10	10	10	10	10	
達成状況		-	-	-	B	B	B	B	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	白河厚生総合病院の病診連携がH24で一度終了し、H26から再開したため、H26に1増となっている。										
⑦今後の課題	増加に向けた取組を検討していく。										



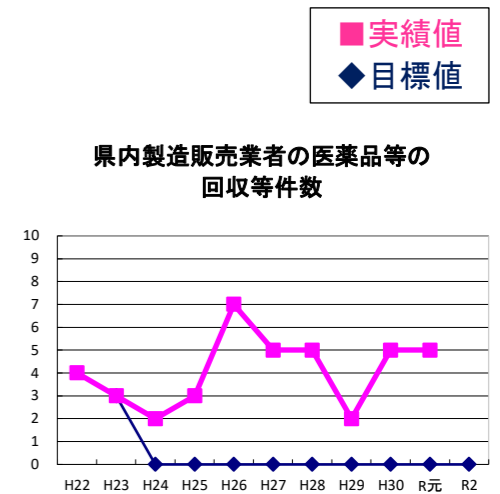
③指標No.、名称	46 献血者目標達成率										
④指標の説明	毎年度設定する献血者目標数の達成状況										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0 %
	実績	102.5	85.0	105.1	107.6						
達成状況		-	-	A							
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成25年度の献血者目標数84,500人に対し、献血者実績は91,166人であり、献血者目標達成率は107.6%となっており順調である。										
⑦今後の課題	超高齢化の進展による血液需要の増加が見込まれる中、少子高齢化の影響による献血協力者の減少が懸念されているため、県内の輸血医療に支障を来さないよう、将来の献血を支える10代20代の若年層への献血推進が不可欠な状況である。										



③指標No.、名称	47 献血量目標達成率										
④指標の説明	毎年度設定する献血量目標数の達成状況										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0 %
	実績	97.3	85.1	105.6	109.2	96.6	104.7	103.4	103.7	101.1	107.3
達成状況		-	-	-	B	A	A	A	A	A	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度の献血量目標31,989Lに対し、献血量実績は34,317.20L、目標達成率は107.3%であり、目標を達成することができた。										
⑦今後の課題	超高齢化の進展による血液需要の増加が見込まれる中、少子高齢化の影響による献血協力者の減少により、将来的な血液不足が懸念されている。県内の輸血医療に支障を来さないよう、将来の献血を支える10代20代の若年層への献血推進が不可欠である。										



③指標No.、名称	48 県内製造販売業者の医薬品等の回収等件数										
④指標の説明	県内の医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器製造販売業者の製品の回収(又は改修)件数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件
	実績	4	3	2	3	7	5	5	2	5	5
達成状況		—	—	—	D	D	D	D	D	D	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	県内の医薬品等製造業者200施設のうち76施設について薬事監視を実施した。(監視率38.0%) 当該施設の監視に際しては、計画的かつ効率的な実施に努めたが、監視率は低下した。回収件数については、ほぼ横ばいで推移している。										
⑦今後の課題	薬事監視員研修会等の機会をとらえ、監視員の資質の向上と計画的かつ効率的な薬事監視の実施に努めるとともに、薬事監視を通じて製造業者の製造技術を向上させ、回収件数の減少及び品質異常・安全情報の速やかな収集の徹底を図る。										



# 指標の進行状況

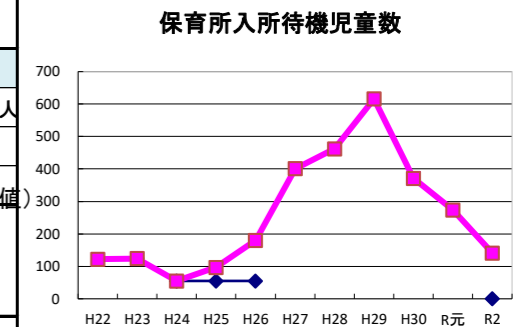
①基本目標	4 日本一安心して子どもを生み育てられる環境づくり
②施策	(1) 安心できる子育て環境の整備(再掲) (2) 社会全体で子育てを支援する仕組みの構築 (3) 子どもの健全育成のための環境づくりの推進 (4) 子育て家庭の経済的支援 (5) 援助を必要とする子どもや家庭への支援 (6) 妊娠・出産・育児の一連において充実した保健・医療体制の確保 (7) 次代の親を育成するための環境づくりの推進

(注)⑥指標の推移  
 <目標値がある指標の達成状況>

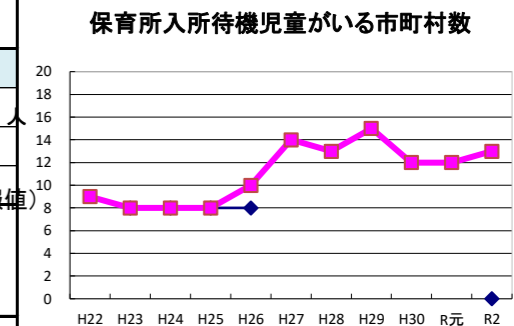
A(100%以上) B(80%~100%未満)  
 C(70%~80%未満) D(70%未満)  
 ※増加を目指す指標→実績/目標  
 ※減少を目指す指標→目標/実績

■実績値  
 ◆目標値

③指標No.、名称	49 保育所入所待機児童数										
④指標の説明	県内で保育所への入所を待機している児童数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
		124	55	55	55	H27~H31の目標値の設定は無し					0
	目標 実績 達成状況	122	124	55	97	180	401	462	616	371	274
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成27年度に開始された子ども・子育て支援新制度により保育の申込可能な範囲が拡大されたことや、保育需要の高まりなどで申込者が増加しているが、施設整備等により受け入れ定員数を増加したことにより、保育申込者に対する待機児童の割合は年々減少している。										
⑦今後の課題	保育の実施主体である各市町村において、保育の需用を適切に捉え、必要な保育サービスを提供できるよう支援を行っていく。										



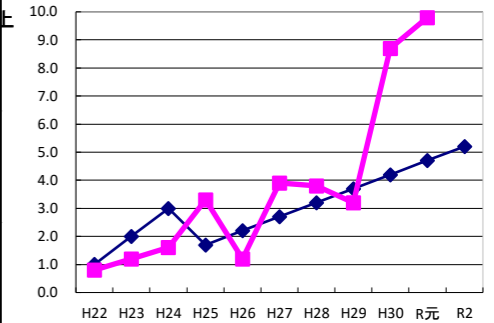
③指標No.、名称	49-1 保育所入所待機児童がいる市町村数										
④指標の説明	県内で保育所への入所を待機している児童がいる市町村数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
		8	8	8	8	H27~H31の目標値の設定は無し					0
	目標 実績 達成状況	9	8	8	8	10	14	13	15	12	12
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成27年度に開始された子ども・子育て支援新制度により保育の申込可能な範囲が拡大されたことや、保育需要の高まりなどで申込者が増加しているが、施設整備等により受け入れ定員数を増加したことにより、保育申込者に対する待機児童の割合は年々減少している。										
⑦今後の課題	保育の実施主体である各市町村において、保育の需用を適切に捉え、必要な保育サービスを提供できるよう支援を行っていく。										



③指標No.、名称	50 育児休業取得率(男性)											
④指標の説明	(労働条件等実態調査における)出産者及び配偶者が出産した者に占める育児休業者の割合											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	1.0	2.0	3.0	1.7	2.2	2.7	3.2	3.7	4.2	4.7	5.2 %以上
	実績	0.8	1.2	1.6	3.3	1.2	3.9	3.8	3.2	8.7	9.8	
達成状況		—	—	—	D	A	A	B	A	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標値は超えたものの1桁台にとどまっております取得率は依然として低いが、男性の育児参加に関する社会的意識の高まりを背景に今後も上昇するものと考えられる。男女共同参画の取組が進められ、職場や家庭での性的役割分担の意識にとらわれないと考える人の割合は高まってきているが、実際に家事や育児等を負担している男性は少ない状況にある。											
⑦今後の課題	引き続き、企業訪問やセミナーを通して男女とも働きやすい職場環境づくりについて普及啓発を図るとともに、男性が育児休業を取得した企業等に対して奨励金を交付することで、男性の積極的な育児参加を促進する。											

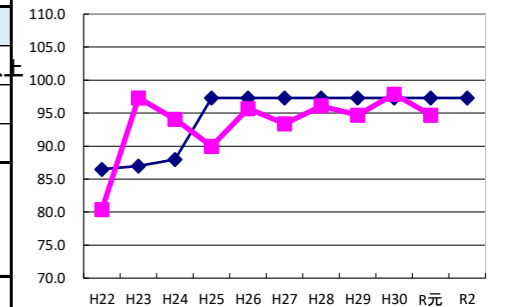


育児休業取得率(男性)



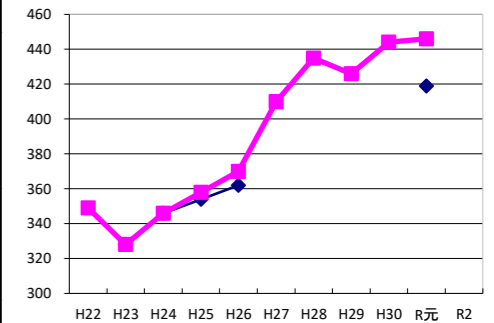
③指標No.、名称	51 育児休業取得率(女性)										
④指標の説明	(労働条件等実態調査における)出産者に占める育児休業者の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	86.5	87.0	88.0	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3 %以上
	実績	80.4	97.3	94.1	90.0	95.7	93.4	96.1	94.7	97.9	94.7
達成状況		—	—	—	B	B	B	B	A	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	女性の育児休業取得は定着しており、実績値は90%台で推移している。										
⑦今後の課題	企業等へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発など、男女がともに働きながら子育てできる環境づくりを進める必要がある。										

育児休業取得率(女性)

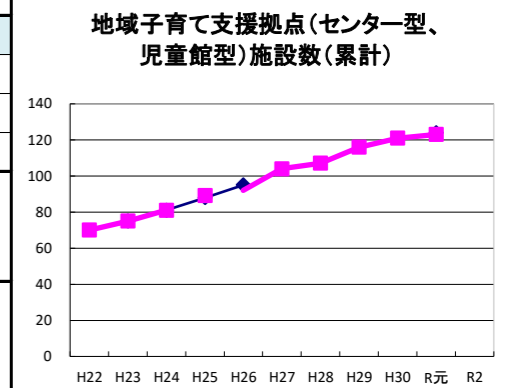


③指標No.、名称	52 放課後児童クラブ設置数											
④指標の説明	県内の放課後児童クラブ(補助対象外も含む)の設置数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標		328	346	354	362	H27~H30の目標値の設定は無し				419	か所以上
	実績	349	328	346	358	370	410	435	426	444	446	
達成状況		—	—	—	A	—	—	—	—	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度は前年と比べ2箇所増加したが、放課後児童クラブのニーズは高く、利用児童数は年々増加している。											
⑦今後の課題	実施主体である市町村と連携しながら、引き続き放課後児童クラブの整備について支援を行っていく。											

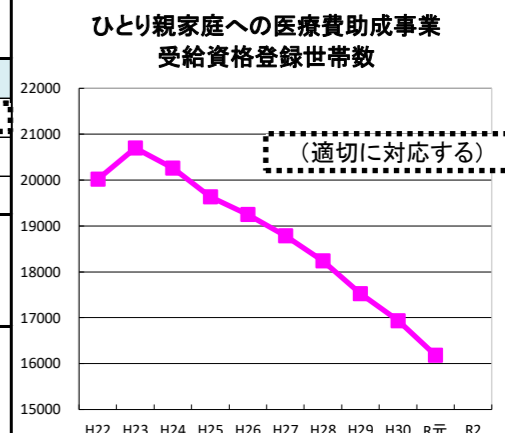
放課後児童クラブ設置数



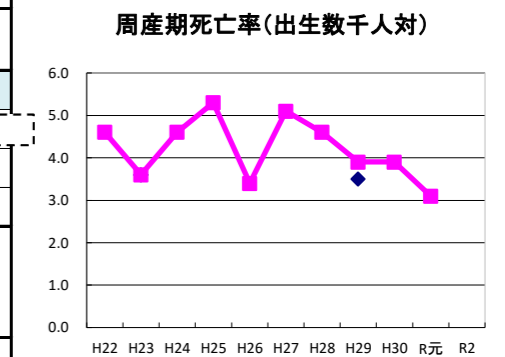
③指標No.、名称	53 地域子育て支援拠点(センター型、ひろば型、児童館型)施設数(累計)										
④指標の説明	県内の地域子育て支援拠点施設(補助対象外も含む)の設置数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
		75	81	88	95	H27~H30の目標値の設定は無し				124	か所以上
	70	75	81	89	92	104	107	116	121	123	
達成状況					B					B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	子育て親子の交流や子育てに関する相談・情報提供を行う機会の提供が求められていることに伴い、設置数が増加している。										
⑦今後の課題	市町村子ども・子育て支援事業計画によりニーズを把握していながら取組が進んでいない市町村に対し、設置を促していく。										



③指標No.、名称	54 ひとり親家庭への医療費助成事業受給資格登録世帯数											
④指標の説明	市町村におけるひとり親家庭等医療費助成事業に係る受給資格登録世帯数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
		20,698		(適切に対応する)								
	20,018	20,698	20,261	19,633	19,250	18,785	18,242	17,526	16,939	16,182		
達成状況												
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成24年度以降減少傾向にある。											
⑦今後の課題	引き続き適切に対応していく。											

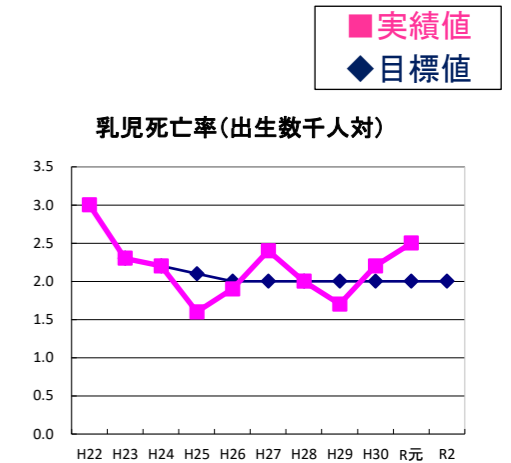


③指標No.、名称	55 周産期死亡率(出生数千人対)										
④指標の説明	妊娠22週以後の死産と生後7日未満までの早期新生児死亡数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
		3.6			(暫定値設定なし)				3.5	(暫定値設定なし)	
	4.6	3.6	4.6	5.3	3.4	5.1	4.6	3.9	3.9	3.1	
達成状況					A	C	C	B	B	A	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	各年間の変動が大きい状況にあるため、今後も経過を注視していく必要がある。										
⑦今後の課題	周産期医療機関の取組を支援するとともに、ネットワークを強化し、周産期の医療安全を守っていくこととしたい。										

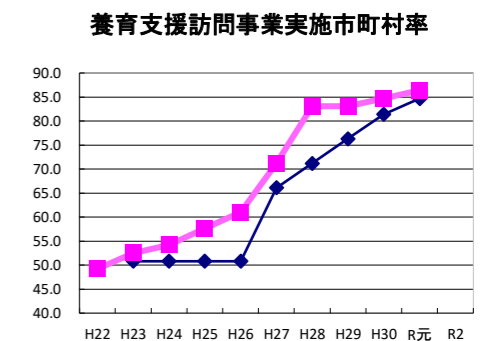




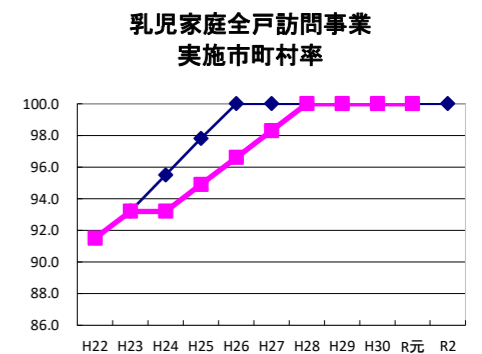
③指標No.、名称	56 乳児死亡率(出生数千人対)											
④指標の説明	出生千に対する生後1年未満の乳児死亡数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標		2.3	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0 以下
	実績	3.0	2.3	2.2	1.6	1.9	2.4	2.0	1.7	2.2	2.5	
達成状況		—	—	—	A	B	A	A	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度は前年より0.3上回り、全国平均の1.9よりも高い結果となった。(R元年度は概数)											
⑦今後の課題	死亡率の減少を目指して普及啓発に取り組んでいく必要がある。											



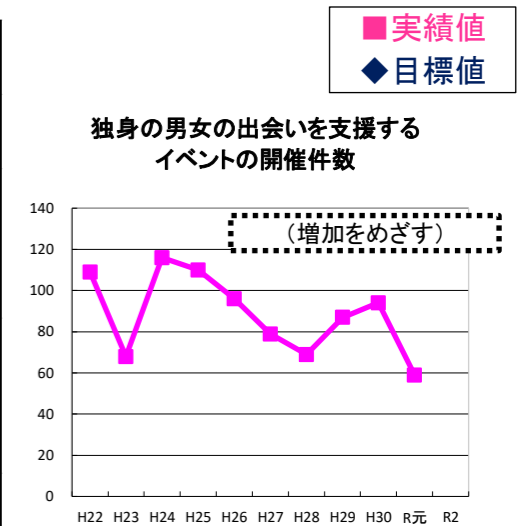
③指標No.、名称	57 養育支援訪問事業実施市町村率										
④指標の説明	社会福祉法による養育支援訪問事業開始届があった市町村数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標		50.8	50.8	50.8	50.8	66.1	71.2	76.3	81.4	84.7 %以上
	実績	49.2	52.5	54.2	57.6	61.0	71.2	83.1	83.1	84.7	86.4
達成状況		—	—	—	A	A	A	A	A	A	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	市町村実施率は上昇しており、目標は達成されている。										
⑦今後の課題											



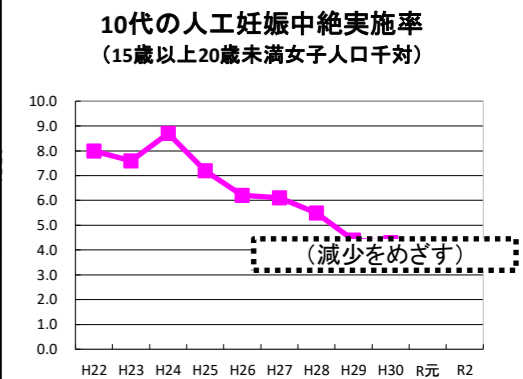
③指標No.、名称	58 乳児家庭全戸訪問事業実施市町村率											
④指標の説明	児童福祉法による乳児家庭全戸訪問事業開始届があった市町村数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標		93.2	95.5	97.8	100.0	100.0 %	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	実績	91.5	93.2	93.2	94.9	96.6	98.3	100.0	100.0	100.0	100.0	
達成状況		—	—	—	B	B	A	A	A	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	全市町村が実施しており、目標は達成されている。											
⑦今後の課題												



③指標No.、名称	59 独身の男女の出会いを支援するイベントの開催件数										
④指標の説明	1年間で開催された若者交流イベントの件数(県補助事業によるイベントと県登録団体のイベントの合計数)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	—	—	(増加をめざす)							
	109	68	116	110	96	79	69	87	94	59	—
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	「ふくしま結婚・子育て応援センター」を中心に、民間団体における継続的なイベントと合わせ、開催件数の増加に向けて取り組んできたところであるが、民間団体のイベントが減少したことにより前年度からの大幅な減となった。今後は、コロナウイルス感染症による影響等により、回数増加について見通せない現状である。										
⑦今後の課題	新型コロナウイルス感染症の影響で対面による婚活イベント等が軒並み中止になっていることから、オンラインでの婚活交流会を実施するなど、新たな男女の出会いの機会を創出することが必要である。										



③指標No.、名称	60 10代の人工妊娠中絶実施率(15歳以上20歳未満女子人口千対)										
④指標の説明	衛生行政報告例による集計										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	7.6	—	(減少をめざす)							
	8.0	7.6	8.7	7.2	6.2	6.1	5.5	4.4	4.3	—	—
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	H22年から24年にかけて8.0%前後と高水準であったが、H30年には4.3%と減少傾向にあり、全国平均の4.7%より0.4%下回った。(R2年11月頃に令和元年の概数値が国から発表される予定)										
⑦今後の課題	引き続き、思春期に関する相談窓口の周知や望まない妊娠等の相談に対応する。										



## 指標の進行状況

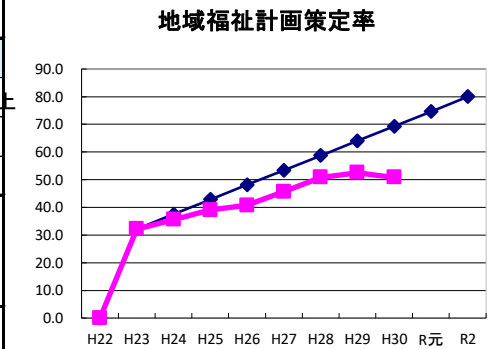
①基本目標	5 ともにいきいき暮らせる福祉社会の推進
②施策	(1) 人格、人権、個性を尊重する社会づくりの推進 (2) 誰もが人と人とのつながりを感じることができる社会づくり推進 (3) 生活に希望を持ち、自らの能力を發揮できる社会づくりの推進 (4) 福祉サービス提供体制の復旧(再掲) (5) 高齢者を対象とした介護・福祉サービスの充実 (6) 地域生活移行や就労支援など障がい者の自立支援 (7) DV、虐待防止及び被害者の保護・支援 (8) 介護・福祉サービスの質の向上 (9) 生活支援の充実

(注)⑥指標の推移  
 <目標値がある指標の達成状況>

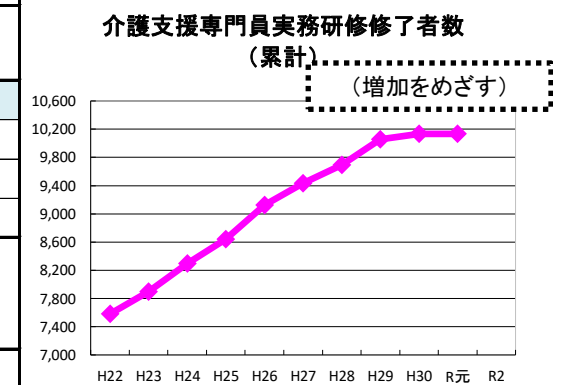
A(100%以上) B(80%~100%未満)  
 C(70%~80%未満) D(70%未満)  
 ※増加を目指す指標→実績/目標  
 ※減少を目指す指標→目標/実績

■実績値  
 ◆目標値

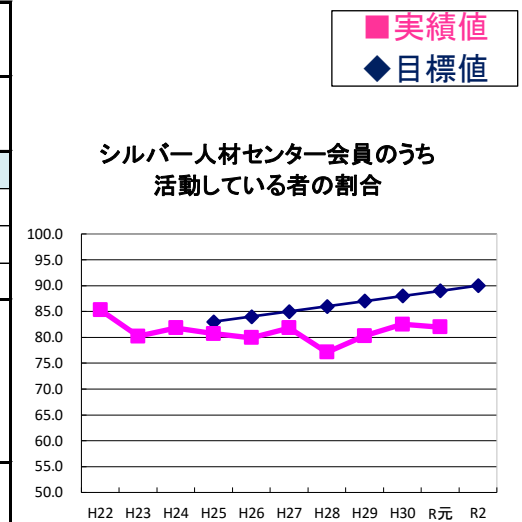
③指標No.、名称	61 地域福祉計画策定率										
④指標の説明	県内において地域福祉計画を策定している市町村の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	32.2	37.5	42.8	48.1	53.4	58.7	64.0	69.3	74.6	80.0 %以上
	—	32.2	35.6	39.0	40.7	45.7	50.8	52.5	50.8		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成29年度の目標値「64.0%」に対して実績「52.5%」で、82.0%の達成率となっている。(H29:31市町村で策定)										
⑦今後の課題	策定市町村の増加数があまり伸びていないため、引き続き、未策定市町村への周知、策定促進に努める必要がある。										



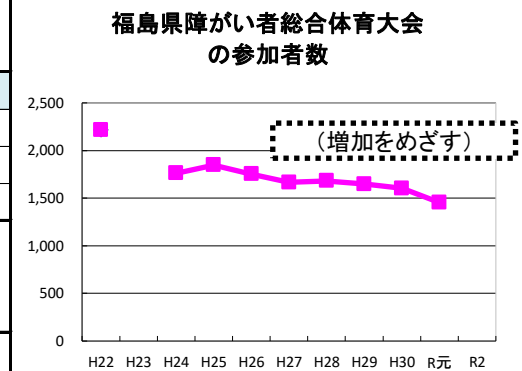
③指標No.、名称	62 介護支援専門員実務研修修了者数(累計)										
④指標の説明	修了者実績による										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	7,581	7,899	8,299	8,639	9,124	9,432	9,692	10,054	10,133	10,133	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成31年度は台風19号の影響により研修が中止となっている。										
⑦今後の課題	介護支援専門員のさらなる人材の育成が必要となる。										



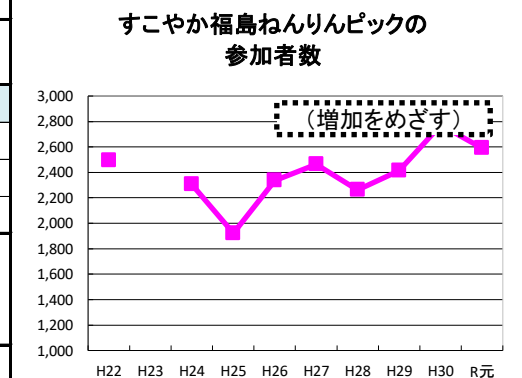
③指標No.、名称	63 シルバー人材センター会員のうち活動している者の割合											
④指標の説明	県内のシルバー人材センターの会員のうちどのくらいの会員が就業しているかを示す指標											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	—	—	83.0	84.0	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0 %以上
	実績	85.3	80.2	81.8	80.7	79.9	81.8	77.1	80.3	82.5	82.0	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	前年度と比較すると0.5ポイント減となり目標値には届かなかったが、現状維持が図られていると考えられる。震災の影響で活動休止中のセンターがあることも要因である。今後は、シルバー人材センター業務の地域や業種及び職種を指定したことにより、就業機会の確保や拡大が図られ、活動する会員が増加することが見込まれる。一方、新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される可能性もある。											
⑦今後の課題	高齢者の就業ニーズが多様化していることから、この多様化を踏まえ就業機会の確保、提供を行っていく必要がある。											



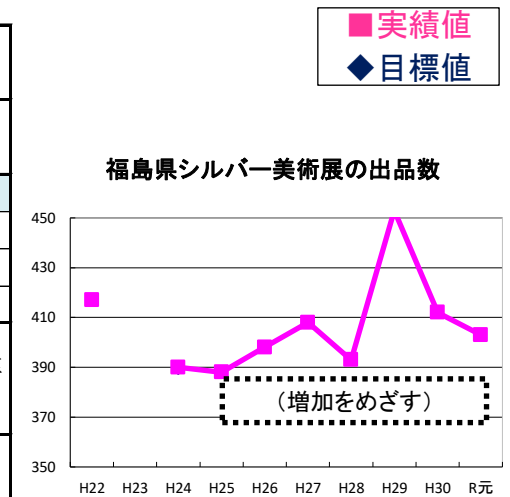
③指標No.、名称	64 福島県障がい者総合大育大会の参加者数										
④指標の説明	福島県障がい者総合大育大会に参加した選手数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	2,214 人以上		(増加をめざす)							
	実績	2,214	開催中止	1,762	1,846	1,752	1,666	1,681	1,647 人	1,602	1,454 人
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	R元(郡山大会)の参加者数は、前年を下回る結果となった。周知活動を強化し、参加者の増を図る。										
⑦今後の課題	県全体の人口減少が続く中、より多くの参加者を集めるには広報活動などの工夫が必要。										



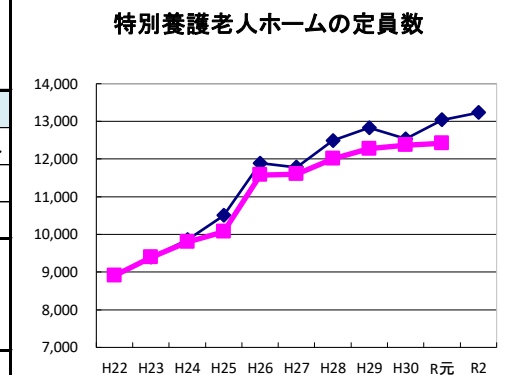
③指標No.、名称	65 すこやか福島ねんりんピックの参加者数											
④指標の説明	「すこやか福島ねんりんピック」に参加した選手の数(累計)											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標			2,306 人以上	(増加をめざす)							
	実績	2,496	開催中止	2,306	1,922	2,336	2,463	2,262	2,413	2,772	2,592 人	中止
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	中止	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	毎年参加者が多く、高齢者の生きがい健康づくりに寄与している。(競技日程の関係から募集定数を設けざるを得ず、毎年おおよそ2,000~2,300程度の参加数は見込めるが、大幅増加は見込めない。)											
⑦今後の課題	競技人口の減少している競技種目があり、参加競技種目の見直しを検討する必要がある。											



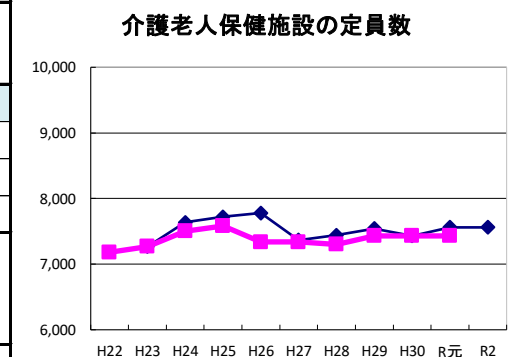
③指標No.、名称	66 福島県シルバー美術展の出品数											
④指標の説明	「福島県シルバー美術展」に出品された作品の数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
			390	(増加をめざす)								
	417	開催中止	390	388	398	408	393	453	412	403 作品	中止	
⑥達成状況	— — — — — — — — — — 作品 中止											
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	H30,31は前年同様の広報媒体を使用して広報活動を行ったが、出品数は伸び悩んだ。R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止とした。											
⑦今後の課題	出品数を増加させるには、更なる広報活動などを行う必要がある。											



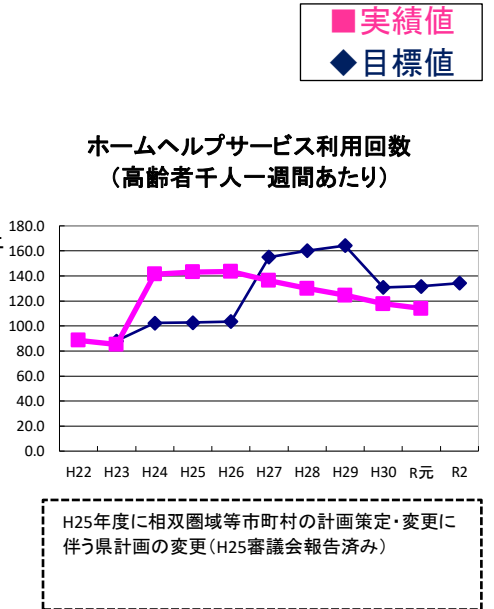
③指標No.、名称	67 特別養護老人ホームの定員数										
④指標の説明	第八次福島県高齢者福祉計画・第七次福島県介護保険事業支援計画における特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設及び地域密着型介護老人福祉施設)の整備計画数(累計)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	9,392	9,854	10,503	11,889	11,778	12,488	12,827	12,536	13,040	13,230 人
	8,904	9,392	9,799	10,073	11,579	11,599	12,006	12,274	12,368	12,418 人	
⑥達成状況	— — — — B B B B B B										
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	実績は目標値の95.23%となっており、今後も計画的に整備を進めていく必要がある。										
⑦今後の課題	介護職員の確保・定着が課題となっている。										



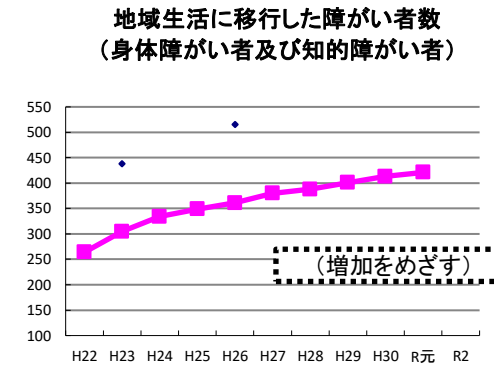
③指標No.、名称	68 介護老人保健施設の定員数										
④指標の説明	第八次福島県高齢者福祉計画・第七次福島県介護保険事業支援計画における介護老人保健施設の整備計画数(累計)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	7,270	7,636	7,722	7,780	7,368	7,441	7,541 人	7,433	7,562	7,562 人
	7,181	7,270	7,503	7,582	7,338	7,338	7,303	7,433 人	7,433 人	7,433 人	
⑥達成状況	— — — — B B B B A B										
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	震災により休止していた施設の再開及び療養病床からの転換により増加し、平成30年度の実績は、目標値に達した。(参考:H25からH26の定員数の減は、相双圏域の休止施設で許可有効期限が満了したことが主な理由である。)										
⑦今後の課題	介護職員の確保・定着が課題となっている。										



③指標No.、名称	69 ホームヘルプサービス利用回数(高齢者千人一週間あたり)										
④指標の説明	各年度の訪問介護サービスの高齢者千人当たりの週間利用回数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	88.1	102.3	102.8	103.5	155.1	160.2	164.2	130.9	131.7	134.3
	88.5	85.2	141.4	143.2	143.5	136.3	130.0	124.6	117.8	114.0	114.0
達成状況	—	—	—	—	A	B	B	C	B	B	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	23年度は震災の影響により、27年度からは総合事業への移行により、実績が減少している。年間利用回数の緩やかな減少が続いているのに対し、高齢者人口が増加していることにより、実績値は目標値を下回っている。										
⑦今後の課題	本県では震災以降介護人材の不足が深刻となっているが、訪問介護サービスを必要とする方々が必要なサービスを受けることができるように、サービス基盤の整備や介護人材の確保等を行っていく必要がある。										

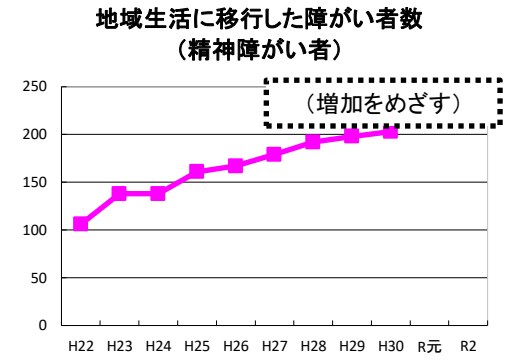


③指標No.、名称	70 地域生活に移行した障がい者数(身体障がい者及び知的障がい者)(H18年度以降の累計)										
④指標の説明	施設から、グループホーム・ケアホーム、単身生活又は家庭復帰した身体障がい及び知的障がい者数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	438	—	—	515	(増加をめざす)					
	264	305	334	349	361	380	388	401	413	421	人
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	障がい者の地域生活移行を推進するためグループホーム等の設置促進が必要であるが、震災の影響によりグループホームに利用できる物件の不足や支援者不足が顕著となっている。さらに消防法施行令が改正(平成27年4月1日施行)され、スプリンクラー設置が義務づけとなることにより、グループホームの整備が進まないことも考えられる。また、入所施設の利用者の思いよりも家族や職員の安心が優先される傾向があること、入所施設職員に地域生活移行について周知されていないことも考えられる。										
⑦今後の課題	グループホームの整備や障がい者の居住の場を確保するため、地域の自立支援協議会と連携を強化することで問題を解決していく必要がある。また福島県居住支援協議会や不動産事業者とも連携、情報共有を図る必要がある。また、入所施設に対して地域生活移行の取組をお願いしていく必要がある。										

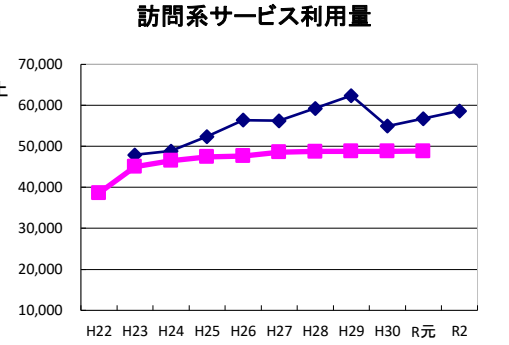


③指標No.、名称	71 地域生活に移行した障がい者数(精神障がい者)(H21年度以降の累計)										
④指標の説明	病院から、グループホーム・ケアホーム、単身生活又は家庭復帰した精神障がい者数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—			(増加をめざす)							
	106	138	138	161	167	179	192	198	203		
目標											
実績											
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	<p>指標の根拠としていた特別対策事業が平成23年度に終了し、平成24年度以降、指標の現況値が把握できない状況であった。平成25年度については、単年度で行われた障害者総合支援法における精神障がい者の地域移行支援及び地域定着支援に関する実態調査を基に実績を出した。</p> <p>また、平成26年度以降は、国保連合会提供「障がい福祉サービス費等実績データ」に基づき、障がい福祉課が調査し実績値を把握している。</p>										
⑦今後の課題	<p>全国と比較し精神科入院患者が多く、しかも長期入院患者が多いこと、また、地域で生活する際に必要なグループホームや訪問看護等のサービスが不足していることなどから、地域生活移行がなかなか進まない状況である。</p> <p>今後は、医療機関や福祉サービス事業所や訪問看護従事者向けの研修や、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた検討を行うなど、精神障がい者の地域移行を促進させる取組を行っていく必要がある。</p>										

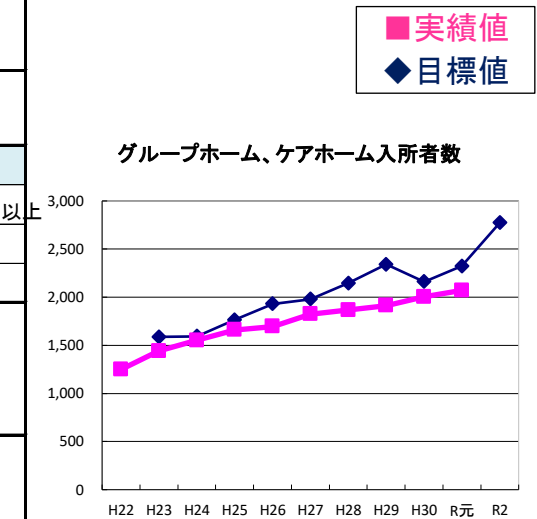
■実績値  
◆目標値



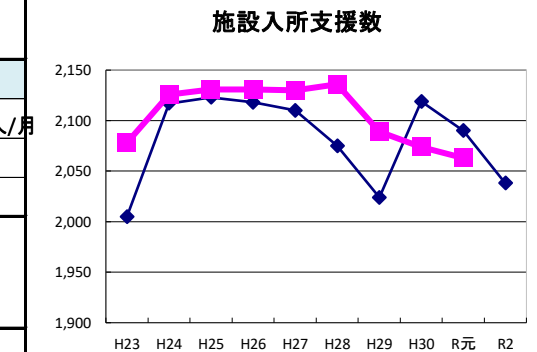
③指標No.、名称	72 指定障害福祉サービスの訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、重度障害者包括支援)利用量										
④指標の説明	障害福祉サービスの1ヶ月当たりの利用時間数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	47,936	48,852	52,404	56,405	56,272	59,283	62,405	54,962	56,791	58,646
	38,611	45,042	46,521	47,435	47,661	48,602	48,773	48,825	48,828	48,870	
目標											
実績											
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	C	C	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	<p>訪問系サービスの利用者数は、ゆるやかではあるが増加しており、今後も利用者数及び利用時間の伸びが見込まれるため、一層の供給体制の充実が求められている。</p>										
⑦今後の課題	<p>介護職員の不足に対する対策や質の高いサービスを提供できる人材の育成が必要となる。</p>										



③指標No.、名称	73 指定障害福祉サービスの居宅系サービスのグループホーム、ケアホーム利用者数											
④指標の説明	指定障害福祉サービスの居宅系サービスのグループホーム、ケアホーム利用者数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	1,586	1,594	1,764	1,930	1,980	2,146	2,340	2,162	2,323	2,773 人以上
	実績	1,249	1,440	1,551	1,659	1,696	1,823	1,867	1,912	2,003	2,071	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	障がい者が自立し、自らが望む地域で生活していくためには、生活の場が確保されていることが前提となる。年々利用者が増加するため整備量の伸びを維持していく必要がある。											
⑦今後の課題	制度や必要性は理解されてきているものの、地域住民の反対等により設置を再検討せざるえない事例も発生しているので、地域社会の理解の促進を図る必要がある。											

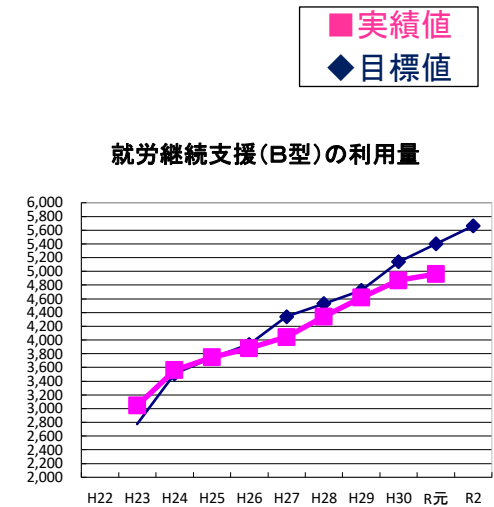


③指標No.、名称	74 指定障害福祉サービスの居宅系サービスの施設入所支援数											
④指標の説明	指定障害福祉サービスの居宅系サービスの施設入所支援数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	2,005	2,117	2,123	2,118	2,110	2,075	2,024	2,119	2,090	2,038 人/月
	実績	—	2,078	2,126	2,131	2,131	2,130	2,136	2,089	2,074	2,063	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	国の方針は地域生活への移行としているが、高齢化、重度化等により地域生活への移行が難航している。											
⑦今後の課題	地域移行を進めるため社会資源の整備を行う必要がある。											

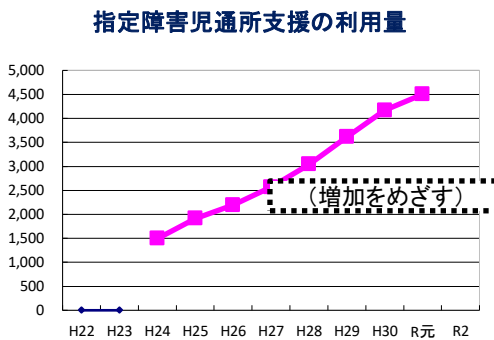




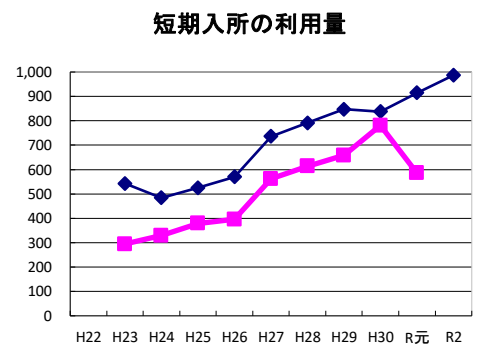
③指標No.、名称	75 指定障害福祉サービスの日中活動系サービスの就労継続支援(B型)の利用量											
④指標の説明	指定障害福祉サービスの日中活動系サービスの就労継続支援(B型)の利用者数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	2,776	3,507	3,741	3,938	4,340	4,530	4,723	5,139	5,402	5,662 人/月
	実績	—	3,045	3,560	3,748	3,880	4,042	4,342	4,619	4,870	4,961	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	B		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標には及ばないが、利用者数は着実に増加している。											
⑦今後の課題	就労継続支援B型事業所数、利用者数ともに年々増加しているが、生産性の低い事業所も見られ、質の向上が問題である。 (事業所数210ヶ所※従たる事業所、出張所、休止事業所を除く)											



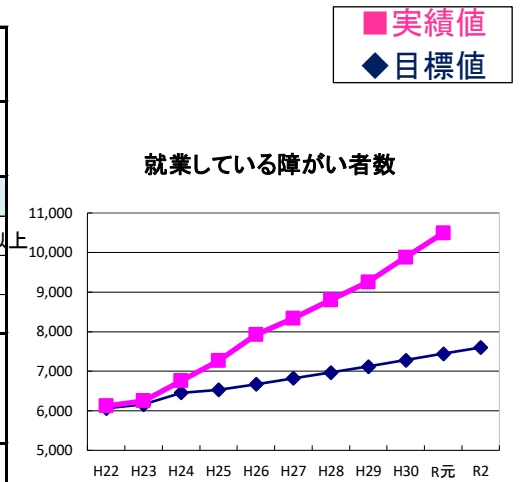
③指標No.、名称	76 指定障害児通所支援の利用量											
④指標の説明	指定障害児通所支援の利用量											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—										
	実績	—		1,493	1,914	2,194	2,568	3,042	3,611	4,168	4,502 人/月	
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	一月当たりの利用人数は着実に増加している。 平成24年4月1日より、障がい児サービスの根拠法が児童福祉法に一元化され、障害児通所支援に再編された。 (増加をめざす)											
⑦今後の課題	通所利用の障がい児やその家族への支援等に対応できるよう事業所の設置等についての助言・指導を行う必要がある。 第1期福島県障がい児福祉計画に基づき、各圏域の状況を踏まえ、供給量の増加を図る必要がある。 (増加をめざす)											



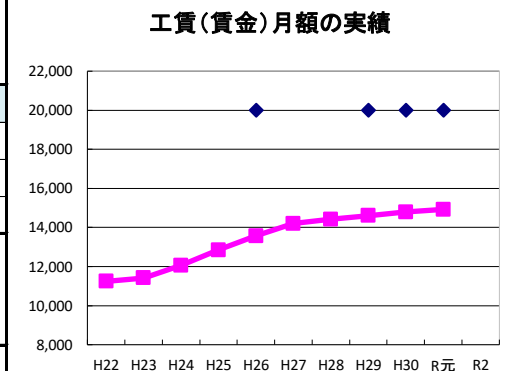
③指標No.、名称	77 指定障害福祉サービスの日中活動系サービスの短期入所の利用量											
④指標の説明	短期入所の利用人員											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	—	543	484	525	570	736	791	847	838	915	987 人/月
	実績	—	294	329	379	396	562	614	658	781	586	
達成状況	—	—	—	—	C	C	C	C	B	D		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	短期入所を希望する利用者は減っているが、利用できる事業所がまだ足りない状況である。											
⑦今後の課題	サービスを提供できる事業者を増やす必要がある。											



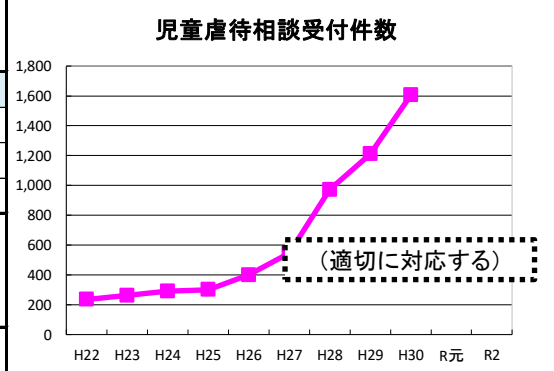
③指標No.、名称	78 就業している障がい者数											
④指標の説明	就業している障がい者数											
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	
	目標	6,063	6,157	6,458	6,530	6,670	6,820	6,970	7,120 人	7,280 人	7,440 人	7,600 人以上
	実績	6,122	6,251	6,760	7,263	7,923	8,336	8,804	9,256 人	9,880 人	10,492 人	
達成状況	—	—	—	—	A	A	A	A	A	A		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	障害者法定雇用率が平成30年4月1日から2.0%から2.2%に引き上げになったことにより、就職している障がい者数が増加している。障がい者雇用に関する各種支援制度が整備されてきていることから、今後も就職している障がい者数は増加していくと考える。											
⑦今後の課題	引き続き事業者をはじめとする関係者への制度周知に努めていく。											



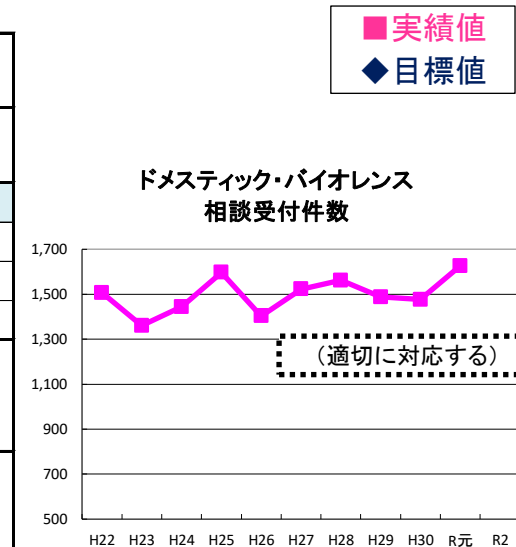
③指標No.、名称	79 工賃(賃金)月額の実績										
④指標の説明	就労継続支援B型事業所(障害者総合支援法に基づく就労継続支援のための施設のうち雇用者と契約を結ばない事業所)における平均工賃										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標	—	20,000 円	(暫定値設定なし)	20,000 円	(暫定値設定なし)	20,000 円	20,000 円	20,000 円	20,000 円	
	実績	11,241	11,414	12,056	12,842	13,571	14,205	14,424	14,602	14,796	14,926
達成状況	—	—	—	—	D	C	C	C	C	C	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標工賃月額20,000円には及ばないが、今後も、第4期福島県障がい者工賃向上プランに基づいた工賃向上支援事業(経営意識向上研修、先進事業所視察、共同販売会の開催、販路拡大の営業活動、農福連携の促進等)を通して、月額工賃の向上に取り組む。										
⑦今後の課題	就労継続支援B型事業所の管理者、職員等の工賃向上への意識向上、製品の販路拡大、より質の高い製品、サービスの提供、食品表示法への対応、農福連携の促進等										



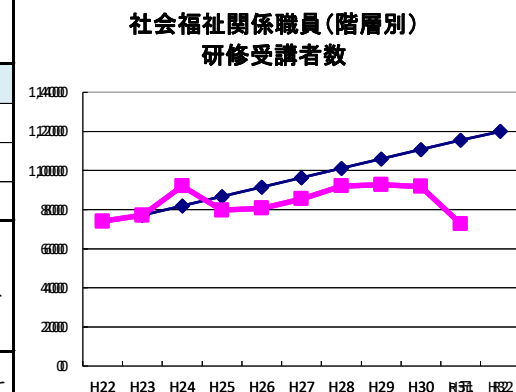
③指標No.、名称	80 児童虐待相談受付件数										
④指標の説明	児童相談所が受け付けた児童虐待相談件数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	目標						(適切に対応する)				
	実績	235	262	290	300	399	547	971	1,211	1,605 件	未公表
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	子ども虐待対応の手引き(厚生労働省)の改正に伴い心理的虐待の対象ケースが拡大されたこと及び警察からの通告件数が増加したことにより、件数が増加している。										
⑦今後の課題	今後とも、虐待の未然防止に向けて関係機関とより一層緊密に連携し、適切に対応する必要がある。										



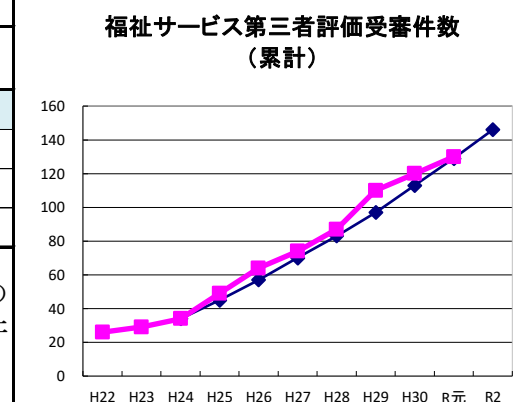
③指標No.、名称	81 ドメスティック・バイオレンス相談受付件数												
④指標の説明	配偶者暴力相談支援センターが受け付けたDV相談件数												
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2		
	—	1,361		(適切に対応する)									
	1,507	1,361	1,444	1,597	1,404	1,523	1,562	1,488	1,477	1,627	件		
目標	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成22年度以降、増減を繰り返しながら横ばい傾向にある。												
⑦今後の課題	広報啓発により相談窓口等の周知を図るほか、被害者の支援について関係機関と連携し適切な対応を行う。												



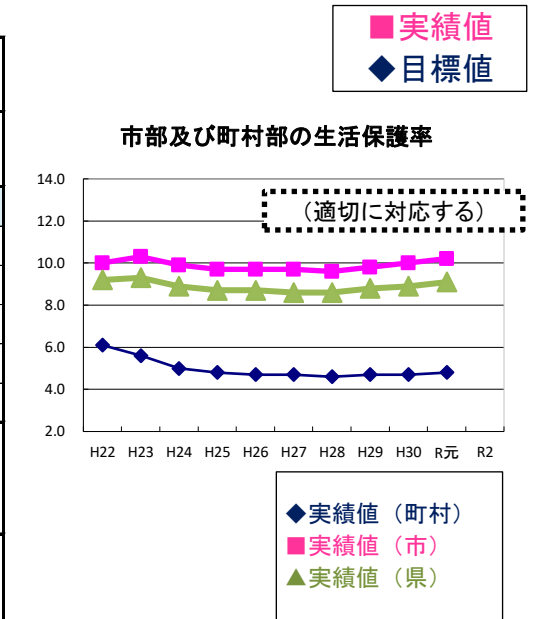
③指標No.、名称	82 社会福祉関係職員(階層別)研修受講者数										
④指標の説明	社会福祉施設の職員に係るキャリアパス研修の受講者数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	771	819	867	915	963	1,011	1,059	1,107	1,155	1,200人以上
	741	771	921	797	807	855	921	928	919	728	
目標	—	—	—	—	B	B	B	B	B	D	
実績	—	—	—	—	B	B	B	B	B	D	
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	D	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	県内施設等の要望を踏まえ、令和元年度は定員960名で階層別研修を開催し、728名の受講があった。利用者の立場に立ち、より質の高いサービスを提供していくために、高い専門性と豊かな人間性を備えた人材の養成・確保がこれまで以上に求められており、研修受講者を増加させる必要性は高まっている。										
⑦今後の課題	職員個々の経歴を踏まえた研修計画を策定させるとともに、キャリアパスとしての研修機会を十分に確保させるため、研修受講を呼びかけていく必要がある。										



③指標No.、名称	83 福祉サービス第三者評価受審件数(累計)										
④指標の説明	平成19年度からの第三者評価を受審した施設・事業所の延べ累計数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	29	34	45	57	70	83	97	113	129	146件以上
	26	29	34	49	64	74	87	110	120	130	
目標	—	—	—	—	A	A	A	A	A	A	
実績	—	—	—	—	A	A	A	A	A	A	
達成状況	—	—	—	—	A	A	A	A	A	A	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	「福祉サービス第三者評価推進サポート事業(H24-H27 県から評価機関への委託)」による評価受審希望施設・事業所への出前講座のほか、評価調査者研修の実施などにより、評価制度への理解や評価体制の整備に取り組んできた結果、令和元年度末までの実績は130件となり指標目標を上回っているが、未受審施設・事業所も多い。										
⑦今後の課題	平成24年度から3年に1階の受審が義務化された社会的養護施設や、2015年度から2019年度末までにすべての保育事業者の受審が努力目標とされたほか、高齢者・障がい者サービスに係る未受審施設・事業所への評価調査対応が可能となるよう、引き続き、評価調査者研修の実施により評価調査者を養成し評価体制を整備していくとともに、平成30年度に作成したステッカーを活用して評価制度を周知し、受審の更なる促進を図っていく必要がある。										



③指標No.、名称	84 市部及び町村部の生活保護率												
④指標の説明	人口1,000人あたりの被保護人員数												
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2		
	目標 (適切に対応する)												
	実績(町村)	6.1	5.6	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.7 ‰	4.7	4.8 ‰		
	実績(市)	10.0	10.3	9.9	9.7	9.7	9.7	9.6	9.8 ‰	10.0	10.2 ‰		
	実績(県)	9.2	9.3	8.9	8.7	8.7	8.6	8.6	8.8 ‰	8.9	9.1 ‰		
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	高齢化の進展により高齢世帯の数は増加が見られるものの、全体的には震災復興事業による雇用環境の改善が続いていることから、保護率は横ばいの傾向が続いている。												
⑦今後の課題	復興事業や避難地域の指定の見直しなどにより保護動向が大きく左右されることが想定されるので、そうした動きを注視していく必要がある。												



## 指標の進行状況

①基本目標	6 誰もが安全で安心できる生活の確保
②施策	(1) 飲料水及び食品等の安全性の確保(再掲) (2) ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしいまちづくりの推進 (3) 生活衛生水準の維持向上 (4) 安全な水の安定的な供給 (5) 生産から消費に至る食の安全・安心の確保 (6) 人と動物の調和ある共生 (7) 健康危機管理体制の強化 (8) 災害時の保健医療福祉体制の強化

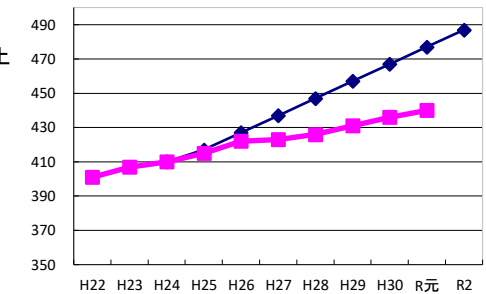
(注)⑥指標の推移  
<目標値がある指標の達成状況>

A(100%以上) B(80%~100%未満)  
C(70%~80%未満) D(70%未満)  
※増加を目指す指標→実績/目標  
※減少を目指す指標→目標/実績

■実績値  
◆目標値

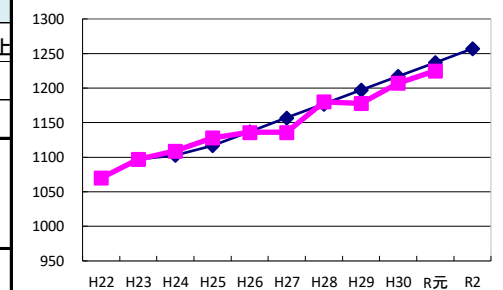
③指標No.、名称	85 やさしさマーク交付数(累計)										
④指標の説明	人にやさしいまちづくり条例の整備基準に適合する施設に対し県が交付した適合証(やさしさマーク)の数(累計)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	—	410	417	427	437	447	457	467	477	487 件以上
	実績	401	407	410	415	422	423	426	431	436	440
達成状況	—	—	—	—	B	B	B	B	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	バリアフリー意識の高まりにより、近年は、順調に推移している。										
⑦今後の課題	イベントや研修会など様々な機会を捉えて、「やさしさマーク」のPRを行うとともに、市町村、商工団体等に対して、チラシ等を送付し、「やさしさマーク」の取得についての更なる普及・啓発を行う。										

やさしさマーク交付数(累計)

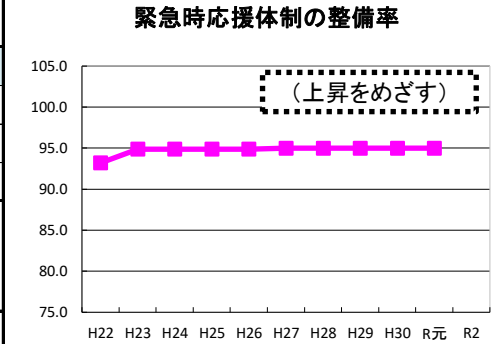


③指標No.、名称	86 おもいやり駐車場協力施設数(累計)										
④指標の説明	おもいやり駐車場利用制度について県に協力申出書を提出した公益的施設の累計										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	—	1,097	1,103	1,117	1,137	1,157	1,177	1,197	1,217	1,237	1,257 件以上
	実績	1,070	1,097	1,109	1,128	1,136	1,136	1,180	1,178	1,207	1,225
達成状況	—	—	—	—	B	B	A	B	B	B	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	目標を下回ったが協力施設数は順調に増加している。また、おもいやり駐車場を利用する県民も増加していることから、協力施設を更に増やす必要がある。										
⑦今後の課題	新たに建築される公益的施設や未参加の公共施設等について、制度への理解や協力が得られるよう、様々な媒体を活用して更なる周知・啓発を行う。										

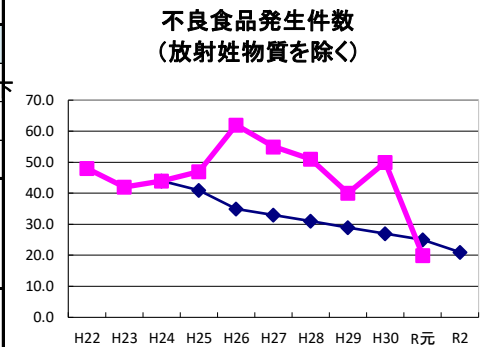
おもいやり駐車場協力施設数(累計)



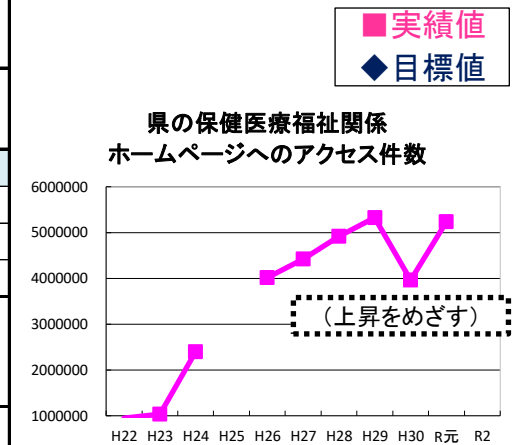
③指標No.、名称	87 緊急時応援体制の整備率										
④指標の説明	水道に係る災害時応援協定を締結している市町村の割合										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(上昇をめざす)										
	目標実績	93	95	95	95	95	95	95	95	95	95 %
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	一部の市町村を除き、緊急時の応援体制は整備されているが、昨年度からの変化は認められなかった。応援協定等は市町村が自ら判断し締結するものであるため、県の働きかけが直ちに締結率の向上につながるものではないが、引き続き、その必要性に関して助言等を行っていく。										
⑦今後の課題	緊急時応援体制の実効性をより高めるため、応援協定等の内容把握に努める必要がある。										



③指標No.、名称	88 不良食品発生件数(放射性物質を除く)										
④指標の説明	県内で生産・製造等された食品で、食品衛生法に基づく規格基準等に違反する食品の発生件数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	21 件以下										
	目標実績	48	42	44	47	62	55	51	40	50	20
達成状況	—	—	—	—	D	D	D	D	D	A	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	令和元年度、食品衛生法及び食品表示法(衛生事項)上の不良食品の発生件数は20件であった(食品製造施設16件、食品の流通販売施設4件)。前年度と比較して食品製造施設が15件、食品の流通販売施設が15件それぞれ減少した。										
⑦今後の課題	不良食品の発生原因を分析し食品製造施設等に対する重点的な監視指導を行うとともに、HACCPによる衛生管理の導入促進を図り、事業者による自主衛生管理の強化を指導していく。										



③指標No.、名称	89 県の保健医療福祉関係ホームページへのアクセス件数										
④指標の説明	情報政策課で集計している月別ホームページアクセス件数を年度毎集計する。(保健福祉部関係のホームページ)										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(上昇をめざす)										
	実績	948,359	1,031,618	2,398,603	—	4,011,104	4,422,573	4,921,035	5,324,374	3,962,458	5,234,476
達成状況	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	平成29年6月からのネットワーク分離に伴い、集計方法を変更。25年度はデータなし。そのため平成22～24年度のデータは参考とする。平成30年度よりボット除去済みの数値で集計。令和元年度は4月～1月までは前年並みのアクセス件数だったが、2月～3月にかけて新型コロナウイルス感染症に関するアクセス件数が急増した。										
⑦今後の課題	見やすく、分かりやすく、タイムリーな情報発信に努めていく。										



③指標No.、名称	90 避難行動要支援者の個別計画の策定市町村数										
④指標の説明	市町村で策定する避難行動要支援者の個別計画の策定数										
⑤指標の推移	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
	(上昇をめざす)										
	実績			19	26	—	D	D	D	D	D
達成状況			—	—	—	D	D	D	D	D	
⑥達成状況の分析 ※現状分析や今後の見通し	個人情報の取扱いや要支援者本人からの情報提供に関する同意を得ることが難しく、加えて地域における調整などに時間を要している。										
⑦今後の課題	個人情報の取り扱いや地域における調整に時間を要するなど計画策定が進まない市町村に対し、事例の提供や助言などにより支援していく。										

